

高松市埋蔵文化財調査報告第46集

高松市ふれあい福祉センター勝賀建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

こうざいみなみにしうちいせき

香西南西打遺跡

2000. 3

高松市教育委員会



1 調査区全景（西から）



2 調査区全景（東から）

はじめに

高松平野の北西に位置する港町香西は、漁業や商業が盛んであり、さらには住宅地として発展しつつあります。この香西の町は、歴史をさかのぼりますと、中世においては戦国武将香西氏が本城を構えた地であり、さらに香西氏を経済的に潤した港でもありました。

香西氏は、讃岐国守護であり室町幕府の管領であった細川氏、次いで畿内に支配をのばした三好氏に仕えていたため、その活躍は讃岐のみならず、畿内においても合戦に参加したことが古文書などからうかがえます。最初、香西氏は現在の鬼無に、居館である佐料城と詰城である勝賀城を築き、本拠地としていましたが、後に港町であった香西に藤尾城を築き、移り住みました。

香西氏は本城藤尾城を築くとともに、周囲には合戦に備え作山城や芝山城などの支城を配したことが文献からうかがえます。一方、文献には現れない城館もあったのではないかでしょうか。今回、発掘しました香西南西打遺跡では、周囲に堀をめぐらした戦国時代の館跡が発掘されました。藤尾城とは約400mの至近距離にあることから、香西氏に関係する武将が住んでいたと推測できます。このように、新しい歴史的事実が次々と発見され、本市の歴史もしだいに明らかになっていくことでしょう。

最後になりましたが、今回の調査に際し、多大なご理解とご協力をいただきました地元の方々や関係者に感謝の意を表するものです。

平成12年3月

高松市教育委員会

教育長 山口 寮式

例　　言

1 本書は、高松市ふれあい福祉センター勝賀（発掘調査時は地域老人福祉センター(仮称)）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書で、高松市香西南町476番地1に所在する香西南西打遺跡の調査報告を収録した。

2 発掘調査および整理作業については、高松市教育委員会が実施した。

3 調査から報告書作成に至るまで、下記の関係機関ならびに方々の助言と協力を得た。記して謝意を表したい。

香川県教育委員会　　財団法人香川県埋蔵文化財調査センター　　讃岐文化遺産研究会
杉本和樹（西大寺フォト）

4 本遺跡の調査は、試掘調査を平成9年7月7日～8日に文化振興課文化財専門員山元敏裕が行い、本調査を平成9年8月7日～10月6日まで同文化財専門員山本英之が行った。整理作業は、山本および同文化財専門員川畑聰が行った。

5 本報告書の執筆・編集は、調査担当であった山本の協力のもと川畑が行った。

6 本文の挿図として、国土地理院発行の2万5千分の1地形図「高松北部」「高松南部」「五色台」「白峰山」および高松市都市計画図2千5百分の1「香西」を一部改変して使用した。

7 発掘調査で得られたすべての資料は、高松市教育委員会で保管している。

8 挿図中の方位は、第1・2図は座標北を、その他は磁北を表す。

9 本書で用いる遺構の略号は次のとおりである。

S D…溝　S E…井戸　S P…柱穴　S X…不明遺構

目 次

はじめに

例 言

目 次

第1章 調査の経緯と経過

第1節 調査の経緯	1
第2節 調査の経過	1

第2章 地理的環境・歴史的環境

第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3

第3章 調査の成果

第1節 調査の概要と層序	6
第2節 遺構と遺物	11

第4章 まとめ

第1節 遺構の変遷	35
第2節 香西南西打遺跡と香西氏について	37

挿図目次

- 第1図 調査区位置図
- 第2図 周辺主要遺跡分布図
- 第3図 土層略図
- 第4図 遺構配置図
- 第5図 遺構番号図
- 第6図 SD02出土遺物実測図
- 第7図 SD03断面図
- 第8図 SD03上層出土遺物実測図①
- 第9図 SD03上層出土遺物実測図②
- 第10図 SD03上層出土遺物実測図③
- 第11図 SD03上層出土遺物実測図④
- 第12図 SD03下層出土遺物実測図①
- 第13図 SD03下層出土遺物実測図②
- 第14図 SD03下層出土遺物実測図③
- 第15図 SD07出土遺物実測図
- 第16図 SE01および排水溝の縦群平面図
- 第17図 SE01出土遺物実測図①
- 第18図 SE01出土遺物実測図②
- 第19図 SP110出土遺物実測図
- 第20図 SP112出土遺物実測図
- 第21図 ピット(SP)出土遺物実測図
- 第22図 ピット平面図(SD03区画内)
- 第23図 SX01出土遺物実測図
- 第24図 SX01断面土層図
- 第25図 SX02断面図
- 第26図 SX02平面図
- 第27図 SX02出土遺物実測図
- 第28図 近世遺物包含層出土遺物実測図
- 第29図 近世遺物包含層出土銅錢実測図
- 第30図 遺構変遷図(第Ⅰ期)
- 第31図 遺構変遷図(第Ⅱ期)
- 第32図 遺構変遷図(第Ⅲ期)

挿表目次

- 第1表 ピット一覧表
- 第2表 SD02出土遺物観察表
- 第3表 SD03上層出土遺物観察表
- 第4表 SD03下層出土遺物観察表
- 第5表 SD07出土遺物観察表
- 第6表 SE01出土遺物観察表
- 第7表 SP110出土遺物観察表
- 第8表 SP112出土遺物観察表
- 第9表 ピット(SP)出土遺物観察表
- 第10表 SX01出土遺物観察表
- 第11表 SX02出土遺物観察表
- 第12表 近世遺物包含層出土遺物観察表

巻頭図版目次

- 図版1-1 調査区全景(西から)
- 図版1-2 調査区全景(東から)

図版目次

- 図版1-1 調査区全景(西から)
- 図版1-2 調査区全景(東から)
- 図版2-1 SD03(西側)(北から)
- 図版2-2 SD03(西側)断面土層(北から)
- 図版3-1 SD03(南側)(東から)
- 図版3-2 SD03(南側)断面土層(東から)
- 図版4-1 SD03(東側)(南から)
- 図版4-2 SD03(東側)断面土層(北から)
- 図版5-1 SE01検出状況(南から)
- 図版5-2 SE01断面上層(西から)
- 図版6-1 SD03とSE01(北東から)
- 図版6-2 SX02(東から)
- 図版7-1 ピット群(東から)
- 図版7-2 SP110土器出土状況
- 図版8 SD03出土遺物
- 図版9 SD03出土遺物
- 図版10 SD03出土備前焼甕
- 図版11 SE01, SP110, SX01・02出土遺物
- 図版12 SD03出土七錘, 近世遺物包含層出土銅錢

第1章 調査の経緯と経過

第1節 調査の経緯

香西南西打遺跡は、中世に高松で活躍した武将香西氏が本拠地または経済的基盤とした港町「香西」の南に位置し、現在の香西南町にあたる。

平成9年に高松市福祉保健部(現健康福祉部)長寿社会対策課より、地域老人福祉センター(仮称)を建設するにあたって埋蔵文化財の照会が高松市教育委員会文化部文化振興課にあった。同地は、高松港頭地区再開発関連事業で発見された香西南西打遺跡に近接するため、埋蔵文化財が発見される可能性が高いと判断された。両者協議の結果、文化振興課が試掘調査を実施することで合意した。平成9年7月7日～8日に試掘調査を実施し、中世の溝跡や土器といった埋蔵文化財を確認した。これを受け、両者再協議が行われ、文化振興課が発掘調査を実施し、発掘調査にかかる費用は長寿社会対策課が負担することで合意した。

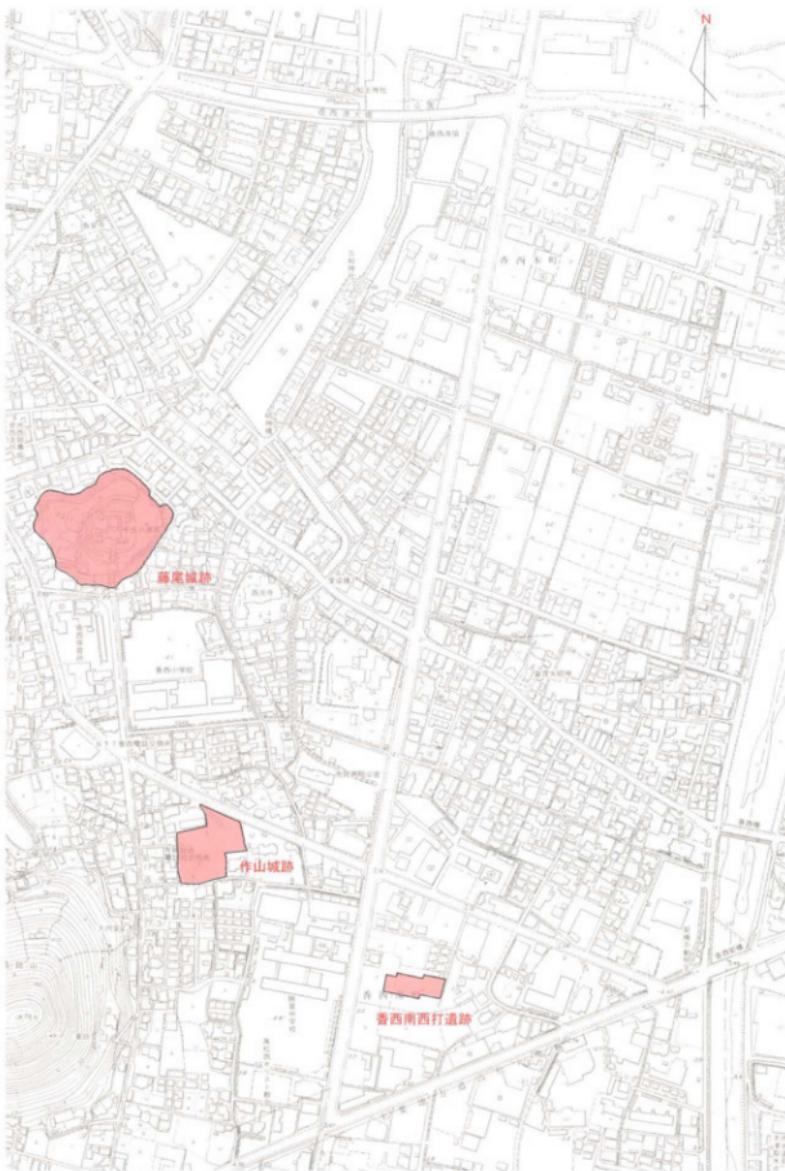
平成9年8月7日から10月6日の間、文化振興課文化財専門員が発掘調査にあたった。報告書作成に必要な整理作業は、調査終了後、文化振興課で行った。

第2節 調査の経過

発掘調査は、平成9年8月7日より開始した。調査は、建造物建設範囲を近世遺物包含層上面まで全面機械掘削した。その後、近世遺物包含層を人力掘削し、遺構検出作業を経て、適宜遺構掘削を行った。10月6日に遺構平面実測図を作成し、調査を終了した。なお、調査の詳細は、次の調査日誌(抄)のとおりである。

調査日誌(抄)

- 8月7日 機械掘削
- 18日 器材搬入、側溝掘削の開始
- 22日 近世遺物包含層の人力掘削開始
- 9月2日 遺構面検出、遺構掘削開始
- 24日 全景写真撮影
- 25日 器材撤収、遺構平面実測図作成開始
- 10月6日 遺構平面実測図が完成し、調査終了



第1図 調査区位置図（縮尺1/5,000）

第2章 地理的環境・歴史的環境

第1節 地理的環境

瀬戸内海に面した香川県のほぼ中央に、低い山塊に囲まれた高松平野がある。高松平野は西側が南から五色台へと続く山地、東側が立石山山地によって取り囲まれた東西20km、南北16kmの範囲に及んでいる。いずれの山地も花崗岩の上に緻密で侵食を受けにくい安山岩がキャップロックと呼ばれる形でかぶさっており、そのため侵食開拓から取り残された台状の平坦面を有する山地（メサ）あるいは孤立丘（ピュート）となっている。西側の五色台は、平坦な頂部をよく残しており、屋島もまた同様に開拓から取り残された台地である。東側の立石山山地はこれらより開拓が進んでおり、紫雲山・白山・由良山など多数の孤立丘とともに高松平野の自然景観を特徴付けている。

高松平野は、これら侵食が進んだあと、沖積世に入ってから堆積して形成されたもので、讃岐山脈から流下し、北へ流れて瀬戸内海へ注ぐ香東川を主体として本津川・春日川・新川などによって搬送された堆積物により緩やか傾斜の扇状地を形成している。

当該地は、この高松平野の北西部に位置するとともに、本津川西岸の河口近くに立地し、東約300mで本津川に至る。さらに、北約1kmで明治時代頃の海岸線に到達し、しかも標高は2.85mと低い。このように、当該地は本津川の沖積作用により形成された三角洲または埋没中洲であり、それを裏付けるように遺構検出面の地山（ベース）は、砂質土であった。

第2節 歴史的環境

香西南西打遺跡が所在する高松平野西部で、もっとも古い人類の歴史が刻まれているのが、中間（なかまつ）・西井坪遺跡と香西南西打遺跡（高松港頭地区再開発関連事業分）である。中間・西井坪遺跡では、旧石器時代後期に属する石器群が見つかることとともに、鹿児島湾北半にあたる姶良カルデラが大噴火して降ったA T火山灰の堆積層も確認されている。次の縄文時代では、鬼無藤井遺跡で川跡から晩期の土器片が出土している。

稲作が始まる弥生時代では、まず鬼無藤井遺跡において前期の環濠集落が出現する。この集落は、二重の環濠を巡らし、最大径約70mの規模をもつ。弥生時代中期の遺跡は未確認で空白を生じる。後期になると、西打遺跡で竪穴住居や掘立柱建物跡を、中間・西井坪遺跡では掘立柱建物跡や土器棺墓が確認されている。

古墳時代になると、高松平野でも古墳の築造が顕著になる。石清尾山塊では、前期初頭の鶴尾神社4号墳を皮切りに前方後円墳や双方中円墳といった積石塚が出現する。積石塚は、尾根頂部や山頂に累々と築造され、全長100m近くを測るものも現れるが、中期中頃には、その築造は終焉するようである。一方、平野西部では、中間・西井坪遺跡で前方後円墳を含む前期古墳の周濠が3基確認されている。中期になると平野西部で最大規模をもつ全長60.5mの前方後円墳・今岡古墳が築造される。ほぼ同時期、中間・西井坪遺跡では埴輪や陶棺を作製・焼成していたことが知られており、ここで製作された陶棺が今岡古墳に供給されたと推測されている。後期初頭になると、それまで山塊や丘陵部のみだった古墳の築造が平野にも見られるようになる。相作（あいさこ）牛塚古墳は、後期初頭に築造された古墳で、挂甲（けいこう）や金銅装の馬具を副葬していた。

古墳時代後期後半では、平野縁辺部の丘陵において横穴式石室を主体部とした群集墳の築造が盛んになる。先の石清尾山塊でも横穴式石室墳が見られるほか、山塊南の淨願寺山山頂付近では小規模な横穴式石室墳が密集している。一方、平野西縁辺に位置する平木古墳群や古宮古墳周辺では、大型の



第2図 周辺主要遺跡分布図（縮尺1/30,000）

横穴式石室墳が点在している。

古墳時代に属する集落は、兀塚遺跡で後期木と推定される掘立柱建物跡群が確認されているだけで、墳墓と比べて不明な部分が多い。

古墳の築造が終了し、代わって豪族たちは寺院建築を行う。平野中央部では坂田廃寺、平野北西部で勝賀廃寺が知られており、両寺とも川原寺式が退化した瓦当文様をもつ軒瓦が出土しており、白鳳期（飛鳥時代後半）の創建年代が推定されている。

奈良～平安時代にかけては、正箱遺跡・薬王寺遺跡が知られる。6時期に分かれるが、計50棟以上の掘立柱建物跡が見つかり、中には面積が40m²を越す大型のものがある。さらに、区画溝や掘立柱建物跡の中には条里地割と方位が符合するものがあり、南海道に接する当該地域では、早くから条里地割の敷設が進んでいたことがわかる。

鎌倉～室町時代でも、条里地割に符合した溝跡が、香西南西打遣跡（高松港頭地区再開発関連事業分）や西打遣跡で数多く広範囲に検出されており、条里地割がこの頃には普遍的であったと考えられる。さらに、西打遣跡では東西54m南北40mの範囲で、区画溝に囲まれた鎌倉時代に属する屋敷地が発掘されており、莊園を基盤とした領主層の成長がうかがえる。力を蓄えた領主たちは、武装して武士化し、やがて戦国時代を強力な武士団として活躍していく。

香川郡を拠点として、讃岐各地や備讃瀬戸に支配権をのばしたのが、香西氏である。香西氏は、承久の乱で戦功をあげ、幕府より阿野・香川郡を与えられた氏族で、この香西氏を核として地元の領主が集結して一大勢力を築いた。この香西氏を経済的に支えたのは、『兵庫北闇入船納帳』（文安2年（1445））にも記されている香西浦であり、活発な商業活動が行われたのであろう。香西氏は、勝賀山に有事の際の城を築き、常は佐料城を居館とし、その周囲には植松城・芝山城・鬼無城などの出城を築いた。後には、本拠地を香西浦に近い藤尾城に移し、作山城を築いている。さらに、香西氏に従った地元の領主たちの居城が周囲に点在している。左図では、筑城城跡および飯田城跡周辺には、今でも塚が群集している。埴輪片が出土するものもあり、相作牛塚古墳のように古墳もあると推定されるし、中世の「武将の墓」という言い伝えも残っている。

豊臣秀吉による四国攻撃以後、その家臣である生駒親正が讃岐一国を支配し、高松城を築き、江戸時代に至る。現在の市街地は、この高松城の城下町が発展したものである。やがて、藩主は生駒家から松平家に替わり、明治維新を迎える。正箱遺跡・薬王寺遺跡や鬼無藤井遺跡では、江戸時代の庶民の墓や屋敷跡が発掘されている。

第2回周辺主要遺跡分布図遺跡名一覧

1 植松城跡	2 芝山城跡	3 勝賀廃寺	4 藤尾城跡	5 作山城跡	6-1 香西南西打遣跡
6-2 香西南西打遣跡（高松港頭地区再開発関連事業分）				7 種賀城跡	8 かしが谷古墳群
9 佐料城跡（佐料遺跡）	10 西打遣跡	11 鬼無藤井遺跡	12 今岡古墳	13 平木古墳群	
14 大塚古墳	15 神高池北西古墳	16 神高池西古墳	17 こめ塚古墳	18 古宮古墳	
19 空家古墳	20 山野塚古墳	21 鬼無城跡	22 筑城城跡	23 王墓古墳	24 相作牛塚古墳
25 飯田城跡	26 御殿大塚古墳	27 半田・小坂塚群	28 青木塚群	29 紙漉塚群	
30 石清尾山9号墳	31 北大塚古墳	32 鏡塚古墳	33 石船塚古墳	34 姫塚古墳	
35 磯塚古墳	36 鶴尾神社4号墳	37 片山城跡	38 淨願寺山古墳群		
39 南山塚古墳群	40 片山池1号窯跡	41 坂田廃寺	42 がめ塚古墳		
43 正箱遺跡・薬王寺遺跡	44 中間・西井坪遺跡		45 兀塚遺跡		

第3章 調査の成果

第1節 調査の概要と層序

調査前の当該地は、水田として利用されていた。調査対象地は、南北約775m・東西約125mを測り、面積約7672.48m²を測る。そのうち、建造物の基礎工事が及ぶ範囲を調査しており、実際の掘削範囲は南北約22m・東西約44mを測り、面積約760m²となった。

調査区の土層堆積状況は次のとおりである。造成用に盛られた花崗土を除去すると、現代の耕作土が現れる。その下は、近世以降の堆積層と考えられるオリーブ褐色(2.5Y4/3)シルト質極細砂があり、さらにその下には近世遺物包含層である黄灰色(2.5Y5/1)シルト質極細砂が堆積している。この近世遺物包含層を除去すると、地山が現われ、遺構面となる。調査区南側では、若干異なり、現代耕作土を除去するとすぐに遺構面となる。これは、調査区北側より南側がやや高いために、地山の上の堆積層が現代の耕作によって削られてしまったためと考えられる。

検出した遺構は、溝跡8条と井戸跡1基、柱穴跡194個そして不明遺構2基である。

【花崗土】

【現代の耕作土層】

【近世以降の堆積層】 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) シルト質極細砂

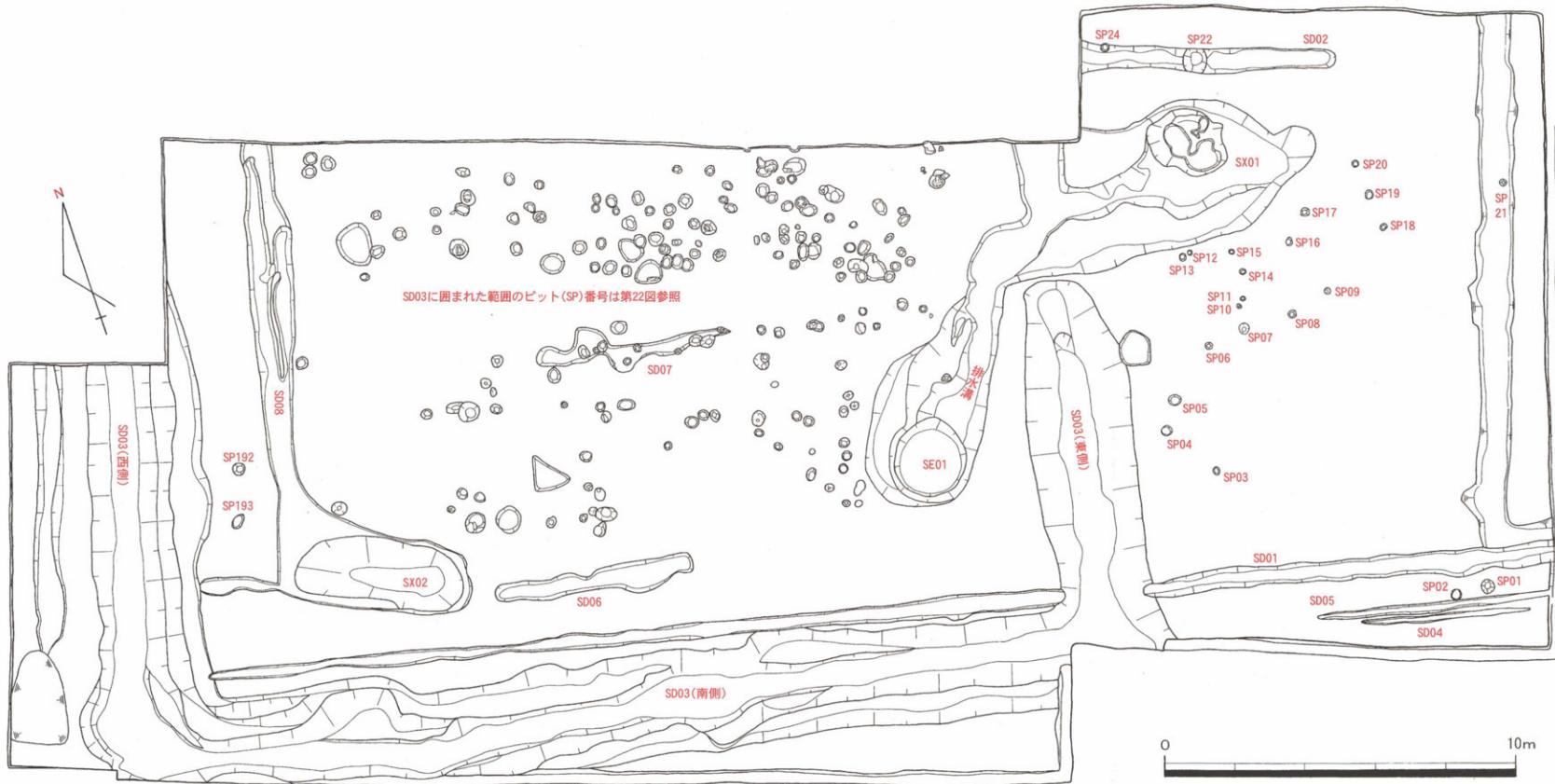
【近世遺物包含層】 黄灰色 (2.5Y5/1) シルト質極細砂

【地山】 砂層

第3図 土層略図



第4図 遺構配置図



第5図 遺構番号図

第2節 遺構と遺物

本遺跡においては、溝跡8条、井戸跡1基、柱穴跡194個、不明遺構2基を検出し、30%コンテナ約40箱分の遺物が出土している。検出した遺構は、どれも後世の削平を受けており、その法量は現存の値を示す。以下、遺構ごとに内容を説明する。

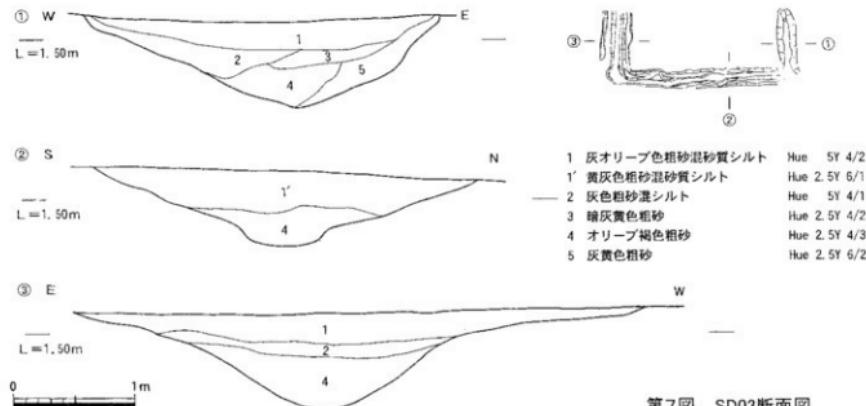
S D O 1 調査区南で東西方向にのびる断面U字形の溝である。方位はN-73°-Wで、幅60cm、深さ20cm、長さ38.6mを測る。出土遺物はない。SD03と交差し、SD03埋没後にSD01が掘削されている。SD03が後述するように17世紀初頭を下限とし、近世遺物包含層がSD01を覆っていることを考慮すれば、江戸時代に掘削・埋没したものと考えられる。

S D O 2 調査区北端で東西方向にのびる断面U字形の溝である。方位はN-67°-Wで、幅70cm、深さ5cm、長さ7.3mを測る。埋土より土師質土器杯(第6図1~3・5)と備前焼皿(4)が出土している。備前焼皿は、間壁編年のIV期にあたり、15世紀頃と想定される(開墾1966~68・84)。土師質土器杯の器高は1.7~2.6cmとSD03出土のものに近く、SD03と近い埋没年代が推定できる。



第6図 SD02出土遺物実測図

S D O 3 調査区全域で検出した平面「コ」字形を呈する溝である。西側の溝は、調査区北の範囲外にのびており、他遺跡の類例を考慮すると、調査区範囲外のものも含めて本来は平面「口」字形であり、今回はその一部を検出したものである。なお、東側の溝は途中で切れているが、後述するようにこの溝が敷地を区画する溝であるなら、東側に出入りがあったと推測できる。断面は彫り鉢形を呈する。方位は南北方向(東側)でN-15°-Eで、幅2.6~3m、深さ71~84cm、長さ11m(外側)を測り、南北方向(西側)でN-29°-Eで、幅2.9~3.4m、深さ69~80cm、長さ11.6mを測り、東西方向でN-84°-Wで、幅2.7~2.9m、深さ57~68cm、長さ28mを測る。埋土は、東西南の各箇所によって違うが、全部で5層に分層できる(第7図)。ただし、遺物については、第1層を上層、第2~5層を下層として取り上げた。



第7図 SD03断面図

埋土上層より土師質土器小皿・杯・擂鉢(41)・羽釜・土鍋・茶釜・壺・釜脚部、龜山焼壺、須恵質土器茶釜、備前焼皿・壺・壺・擂鉢、瀬戸美濃系天目茶碗、唐津産溝縁皿、中国産青磁碗、丸瓦、土鍾が出土している(第8～11図)。

土師質土器杯(7～10)は、口径9.0～9.4cm、器高1.35～1.75cmを測る。土師質土器擂鉢(11～15)は、口縁部が丸みを帯び狭くなり、内面卸目が3条と少ない。国分寺楠井遺跡の例を引用すれば、佐藤編年のⅢ期にあたり、15世紀中葉～16世紀前半と想定できる(佐藤1995)。土鍋(16)は、口縁部が「て」の字状を呈するもので、口縁部の屈曲の度合いから片桐編年のⅢ～7期にあたり、16世紀前葉と想定される(片桐1992)。羽釜(17・19)は、鋤の退化が著しく片桐編年のⅢ～7～8期にあたり、16世紀前葉～中葉と想定される(片桐1992)。土鍋(18)は、口縁部に内耳が付くもので、片桐編年のⅢ～7～8期にあたり、16世紀前葉～中葉に想定できる(片桐1992)。茶釜(20)は、底部外面に粗い格子目の叩きを全面に施したものである。

龜山焼壺頸部(24)は、「く」の字形に強く屈曲し、体部外面に細かい格子目の叩き痕を有している。伊藤編年の龜山焼第2群にあたり、13世紀と想定される(伊藤1987)。

須恵質土器茶釜(25・26)は、口縁部を短く直立させ、肩に印花文を施す。

備前焼は、皿(27)、壺(28～29)、壺(30・38・39)、擂鉢(31～37)が出土している。備前焼壺は、口縁端部の玉縁をやや幅広く作り、肩には櫛描きによる平行文と波状文をもつ。壺も壺同様にやや幅広の玉縁をもつ。備前焼擂鉢は、口縁端部を土に大きく拡張しているものが主体を占める。これら備前焼は、間壁編年のIV期後半にあたり、15世紀後半と想定される(間壁1966～68・84)。なお、壺(38)の破片はSD03上層だけでなく、SE01からも出土しており、複数の遺構間にまたがる。

国産陶器として、瀬戸美濃系天目茶碗(40～42)、唐津産溝縁皿(43)が出土している。天目茶碗は、内反り高台で、口縁部がややくびれ、高台周辺に鉛釉を施している。藤沢編年の瀬戸・美濃大窯第2段階後半～第3段階前半にあたり、16世紀中頃と想定される(藤沢1993)。唐津産溝縁皿は、口縁端部を強く屈曲させたもので、灰釉がかかっており、17世紀初頭と想定される。

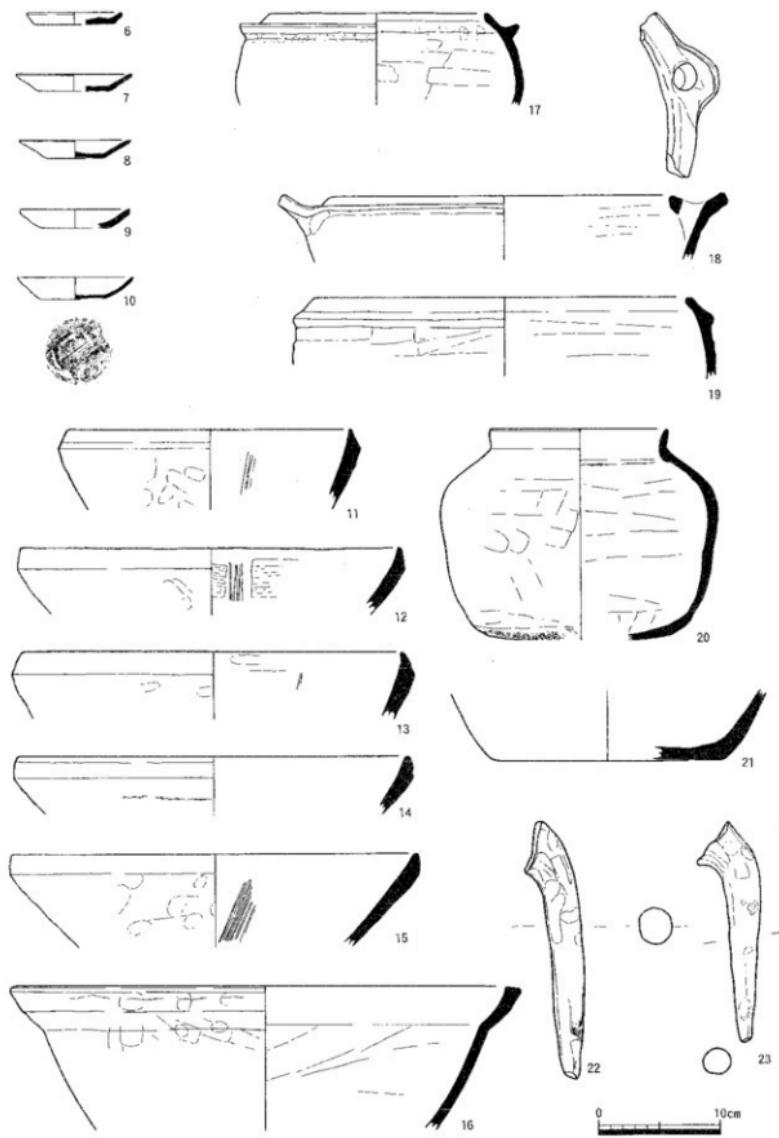
中国産青磁碗(44)は、龍泉窯系で片切形もしくは丸彫の蓮弁をもつことから上田編年のB～Ⅲ類に該当し、15世紀頃と想定できる(上田1982)。同底部片(45)は、釉が疊付を超えて高台内面途中までかかっている。

土鍾(47～50)は、やや先の尖る楕円形を呈し、横に繩をかける溝をもつ。

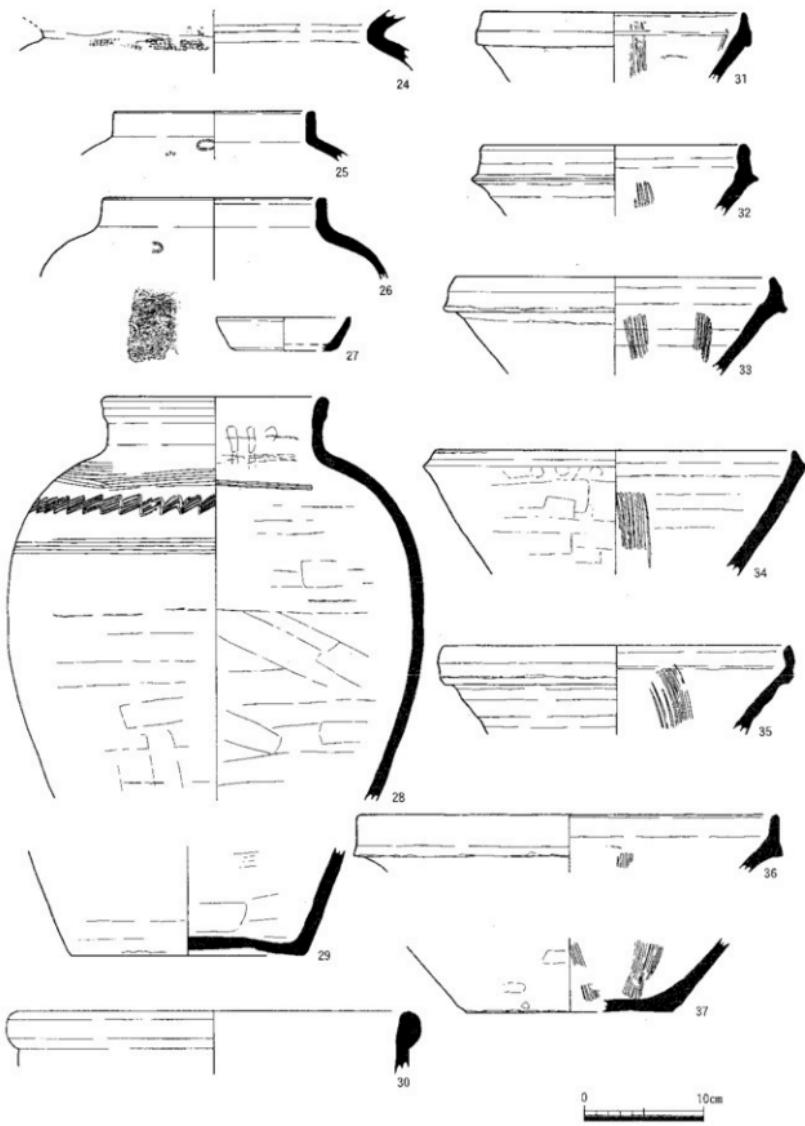
埋土下層より土師質土器小皿・杯・擂鉢・壺・羽釜・土鍋、備前焼壺、常滑焼壺、瀬戸美濃系陶器碗、中国産白磁小碗・青磁輪花皿・青磁碗・青磁盤・青白磁碗、土鍾が出土している(第12～14図)。

土師質土器杯(53～71)は、おおむね口径8.0～11.0cm、器高1.2～2.3cmを測るが、中には71のように口径15.8cmを測ったり、63・70のように器高が3cm近くあるやや大型のものが見られる。土師質土器擂鉢(72～78)は、口縁部が丸みを帯び狭くなり、内面卸目が3条と少ない。国分寺楠井遺跡の例を引用すれば、佐藤編年のⅢ期にあたり、15世紀中葉～16世紀前半と想定できる(佐藤1995)。土師質土器壺(79・80)は、短い頸部に肥厚させた口縁部をもつもので、体部外面に格子目の叩き痕が残る。羽釜(81～84)は、鋤の退化が著しく片桐編年のⅢ～7～8期にあたり、16世紀前葉～中葉と想定される(片桐1992)。土鍋(85～89)は、口縁部に内耳が付くもので、片桐編年のⅢ～7～8期にあたり、16世紀前葉～中葉に想定できる。

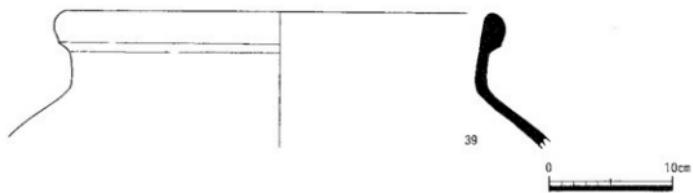
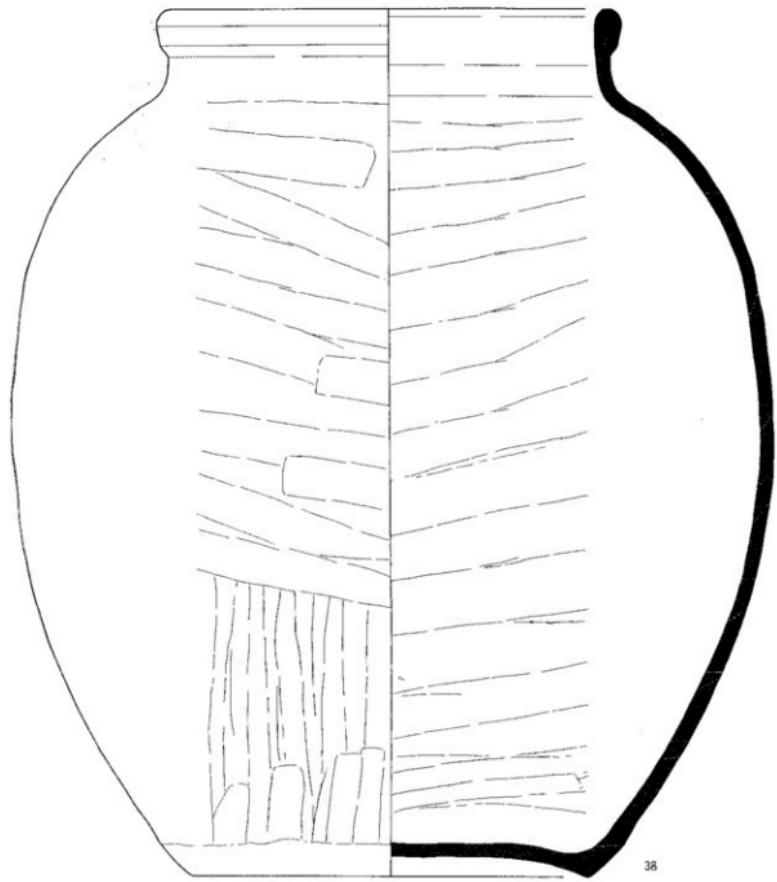
備前焼壺(90)は、口縁部を外反させ、端部を玉縁状に作っている。肩には櫛描きによる波状文が施されている。間壁編年のⅢ期に相当し、14世紀前半頃と想定される(間壁1966～68・84)。



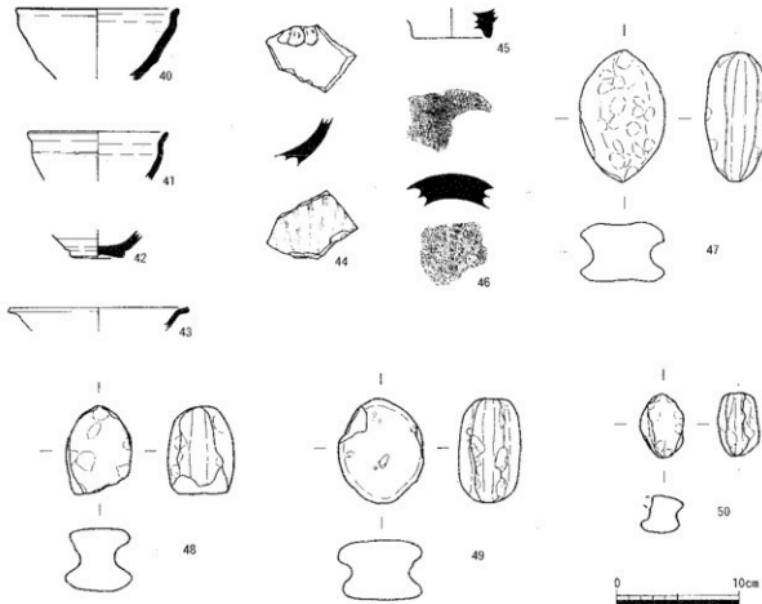
第8図 SD03上層出土遺物実測図①



第9図 SD03上層出土遺物実測図②



第10図 SD03上層出土遺物実測図③



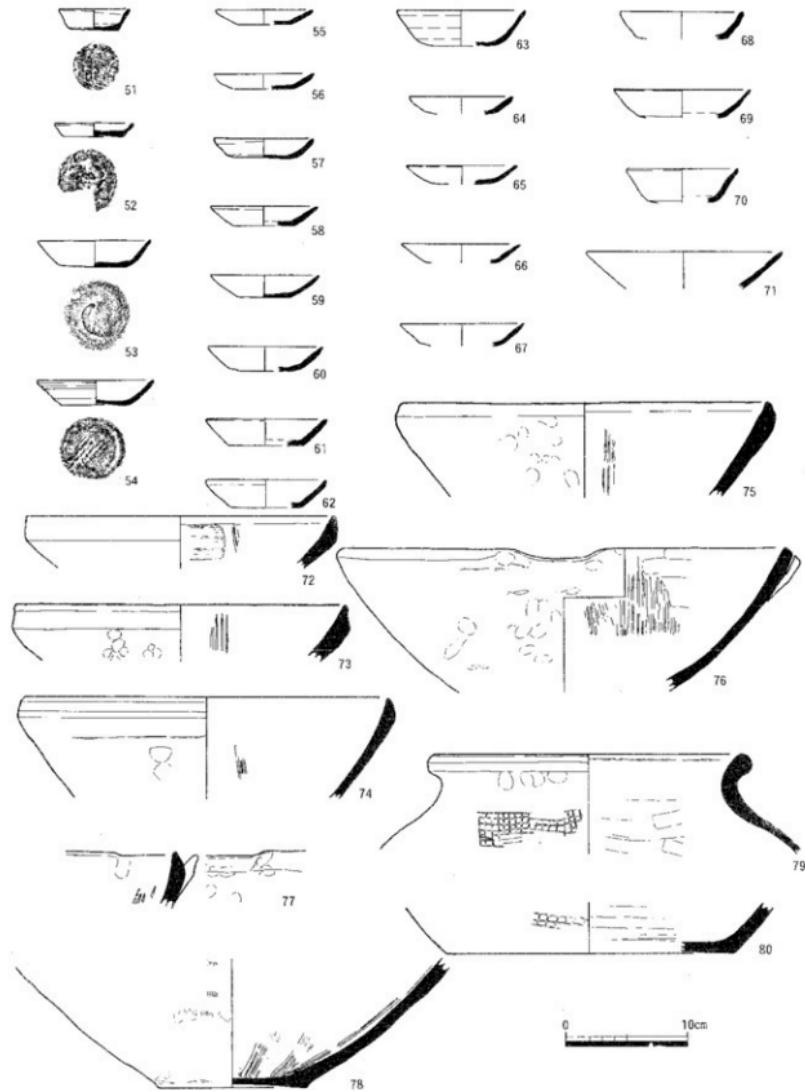
第11図 SD03上層出土遺物実測図④

常滑焼壺(91)は、口縁端部を上下に拡張させた破片で、断面はN字状を呈する。口縁縁帶部は2.5cmを測る。中野編年6a型式に該当し、13世紀第三四半期と想定できる（小野1995）。

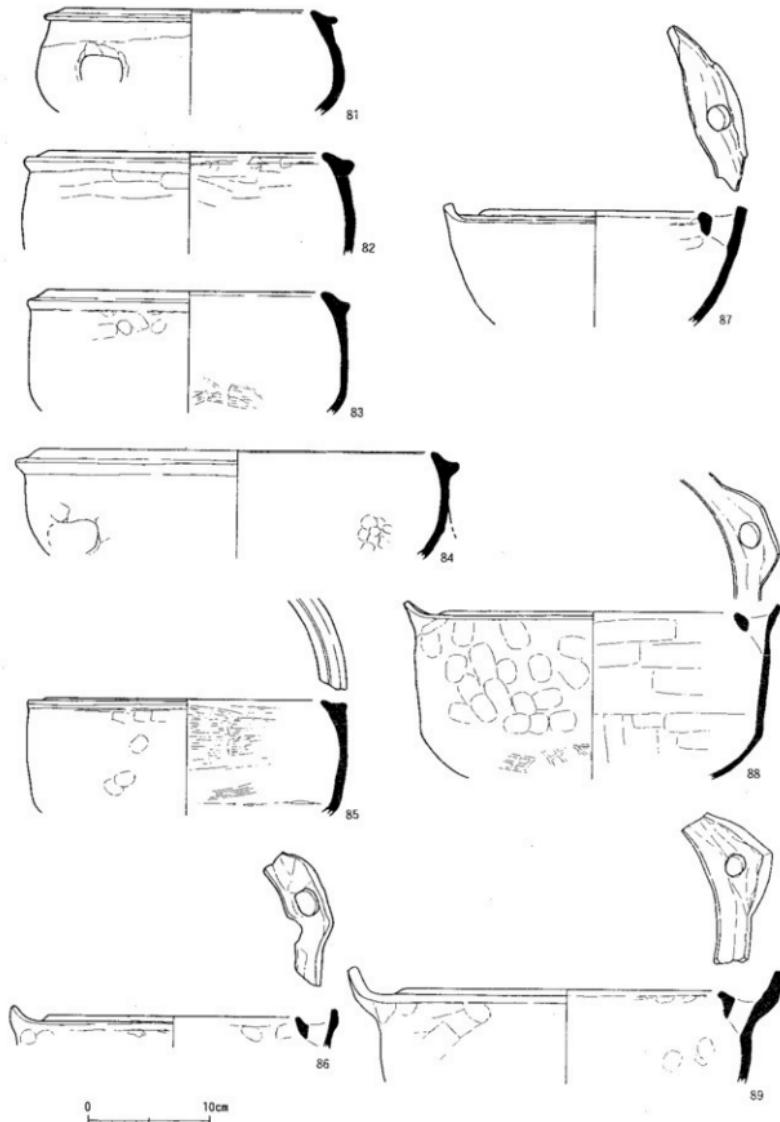
瀬戸美濃系丸碗(92)は、口縁部の破片で、灰釉が外面途中までかかっている。高台を欠いており時期の決定は難しいが、藤沢編年瀬戸・美濃大窯第2または第3段階以降にあたり、16世紀以降と想定される（藤沢1993）。

中国産陶磁器が一定量出土している。白磁小碗(94)は、端反りの口縁部の破片で、全面に施釉する。森田勉編年のE類に該当し、16世紀頃と想定できる（上田1982）。青磁輪花皿(98)は、高台付近の破片で、体部内面に草花文を施している。紀淡海峽出土のものと類似しており、15世紀(1,400年)前後から15世紀中葉頃の年代が与えられている（上田1982）。青磁碗口縁部(100)は、縁部を外反させ丸く仕上げており、内外面とも無文である。これが、上田編年のD-II類に該当するなら、14世紀末から15世紀初頭と想定できる（上田1982）。ほかに青磁碗底部(93・95~97)や青磁盤(99)の破片が出土している。97の内面には、草花文が施されている。青白磁碗(101)は、景德鎮窯のもので、16世紀と想定されている。

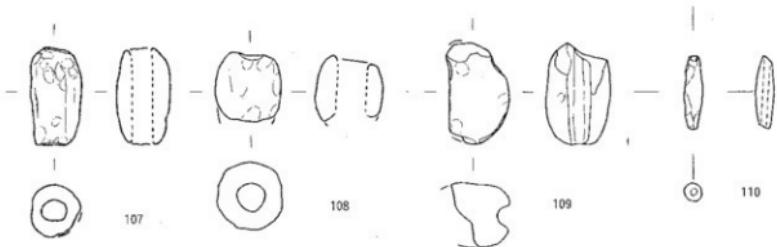
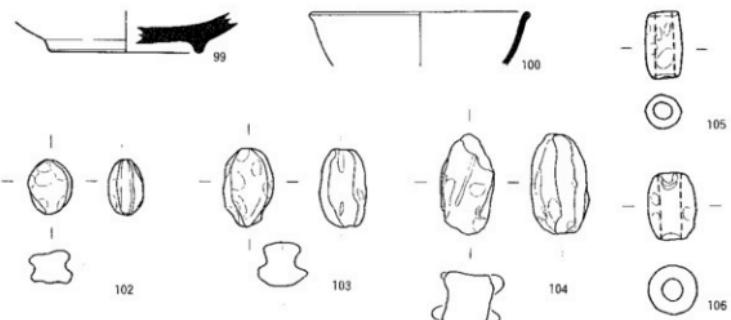
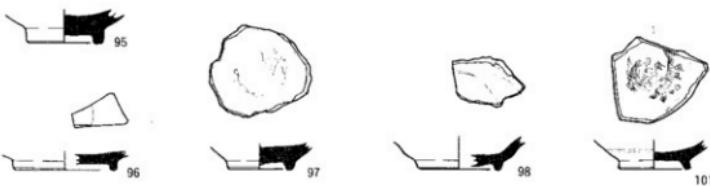
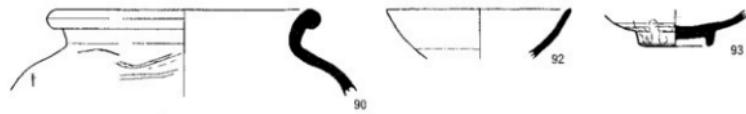
上鉢は、3種類出土している。やや先が尖って橢円形を呈し、横に縄をかける溝をもつもの(102~104・109)。径の大きい円筒形で、縄を通す穴をもつもの(105~109)。径の小さい円筒形で、縄を通す細い穴をもつもの(110)である。



第12図 SD03下層出土遺物実測図①



第13図 SD03下層出土遺物実測図②



0 10cm

第14図 SD03下層出土遺物実測図③

さて、出土遺物を概観すると、亀山焼壺や備前焼の一部に13~14世紀代の遺物を少量含むが、これらは古い時期の遺構の遺物が混じったものと考えられる。大多数の土器の製作年代は15世紀後半~16世紀中葉に集中しており、この頃にSD03が機能していたと推測される。また、出土遺物のうち、もつとも新しいものは17世紀初頭である。これらを考慮すると、SD03は15世紀後半に掘削され、16世紀後葉には埋没が始まり、17世紀初頭に埋没が終了したと考えられる。

S D O 4 調査区南東隅でSD01・SD05と平行して東西方向にのびる断面U字形の溝である。方位はN-73°-Wで、幅20cm、深さ3cm、長さ4.9mを測る。出土遺物はない。

S D O 5 調査区南東隅でSD01・SD04と平行して東西方向にのびる断面U字形の溝である。方位はN-73°-Wで、幅25cm、深さ5cm、長さ6.6mを測る。出土遺物はない。

S D O 6 調査区中央南寄りで東西方向にのびる断面U字形の溝である。方位はN-77°-Wで、幅40~90cm、深さ5cm、長さ5.8mを測る。出土遺物はない。

S D O 7 調査区中央北寄りで東西方向にのびる断面U字形の溝である。方位はN-76°-Wで、幅30~90cm、深さ5~12cm、長さ5.6mを測る。不明鉄製品が出土している(第15図)。

S D O 8 調査区西侧で南北方向にのびる断面U字形の溝である。方位はN-17°-Eで、幅1.3m、深さ10~20cm、長さ12.8mを測る。出土遺物はない。SX02と重複するが、切合関係は不明である。

S E O 1 調査区東側中央付近で検出した素掘りの井戸で、SD03に囲まれた区画では南東端に位置する。井戸の平面形はほぼ正円形を呈し、検出面で直径2.3m、底径は1.7m、深さは1mを測る。断面は逆台形を呈し、埋土はオリーブ黒色(5Y3/2)シルト質極細砂(疊多く含む)の単一層である。

埋土より土師質土器杯・羽釜・擂鉢・壺、須恵質土器鉢、備前焼壺・擂鉢、中国産青磁碗、丸瓦、加工石が出土している(第17~18図)。土師質土器杯(112~115)は、口径8.2~10.8cmを測る。羽釜(116)は、鋤の退化が著しく片桐編年のⅢ-7~8期にあたり、16世紀前葉~中葉と想定される(井田1992)。土師質土器擂鉢(117~119)は、口縁部が丸みを帯び狭くなり、内面御目が4条と少ない。国分寺楠井遺跡の例を引用すれば、擂鉢は佐藤編年のⅣ期にあたり、15世紀中葉~16世紀前半と想定できる(佐藤1995)。土師質土器壺(120~123)は、短い頸部に肥厚させた口縁部をもつもので、体部外面に格子目の叩き痕が残る。

須恵質土器鉢(124)は、SD03上層出土の須恵質土器茶釜(25・26)と同じ印花文をもつ。

備前焼は、壺(125)、擂鉢(126~130)が出土している。備前焼壺は、口縁部が直立して立ち上がり、端部に小さな玉縁を作っている。備前焼擂鉢は、口縁端部を上に大きく拡張しているものが主体を占める。これら備前焼は、間壁編年のⅣ期後半にあたり、15世紀後半と想定される(岡野1966~68・84)。

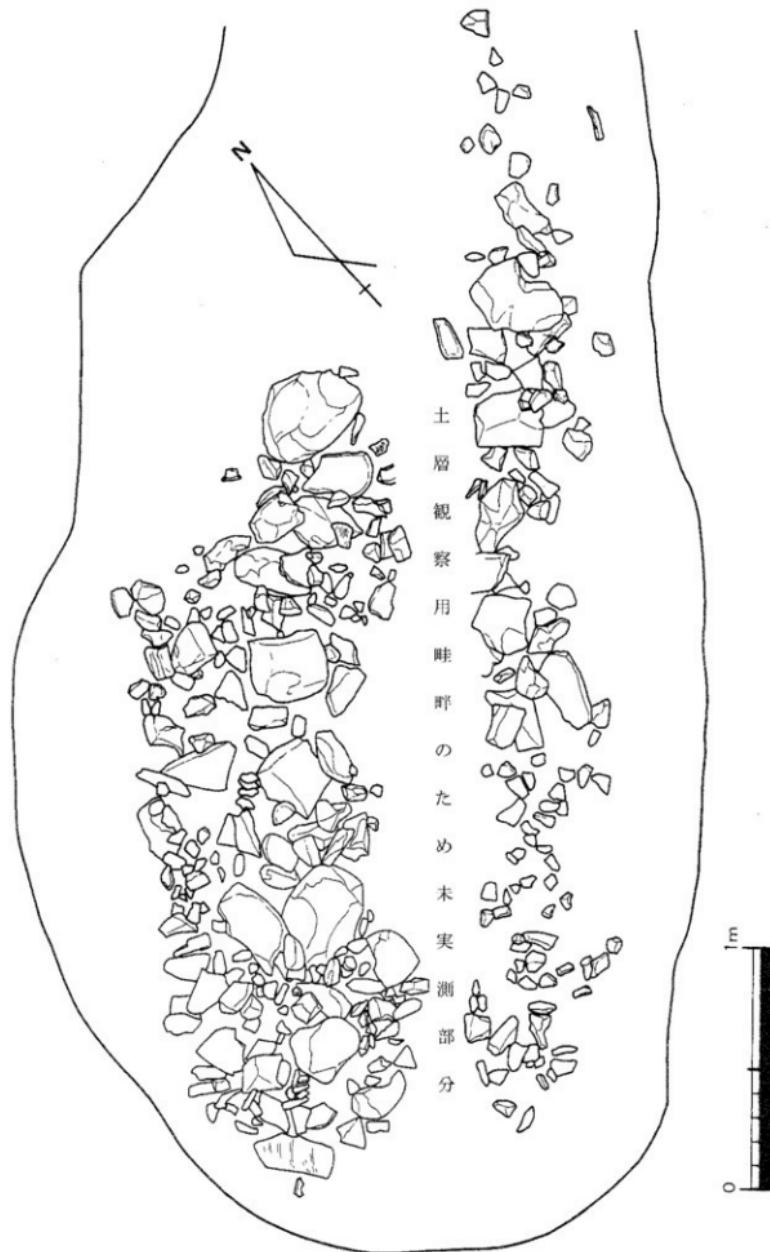
中国産青磁碗底部破片(131・132)が2点出土している。131は、幅広の蓮弁を体部外面にもつ龍泉窓系で、釉が豊付を越えていないことから、上田編年のB-II-a類に該当し14世紀末から15世紀初頭と想定できる(上田1982)。132は底部内面に草花文を施しており、釉を全面に施した後に底部外面を搔き取っている。

丸瓦(133)は、土師質で端部の破片である。加工石(134)は、一部を欠損するが、平坦面を5面残す直方体である。砥石の可能性があるが、断定はできない。

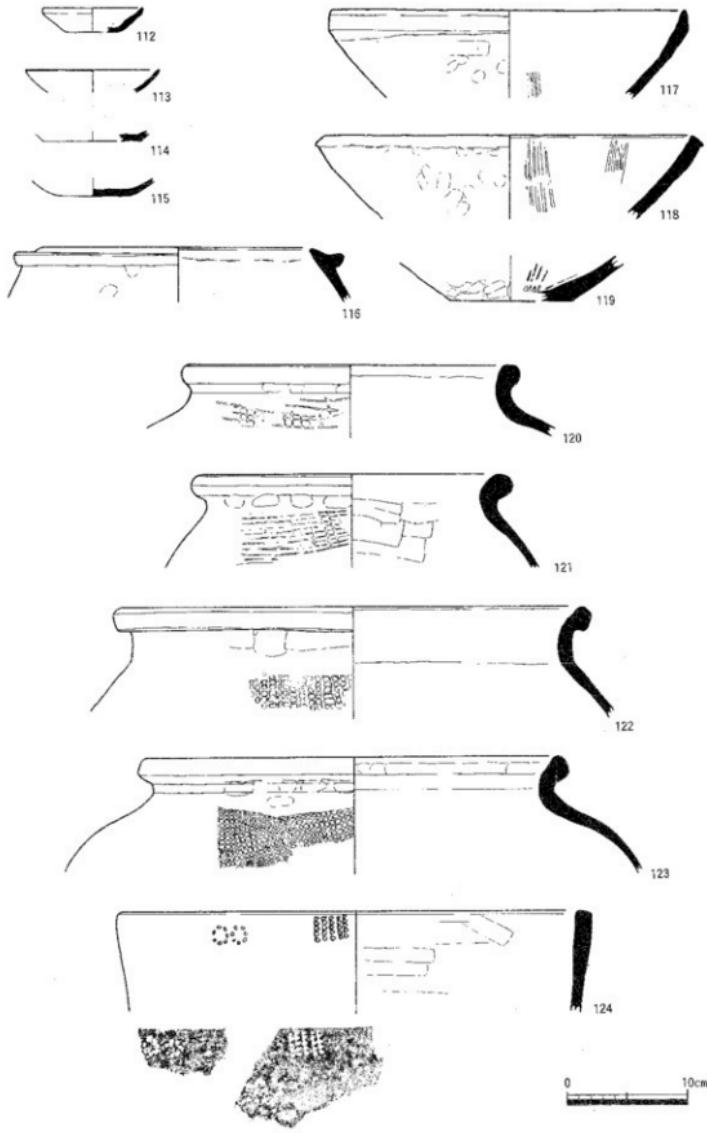
出土遺物を概観すると、SD03と同じ15世紀後半~16世紀中葉に集中しており、この頃にSE01も機能していたと推測される。さらに、SD03上層から出土している備前焼壺の破片の一部は、このSE01からも出土しており、両遺構は同時期に存在していたと推測できる。



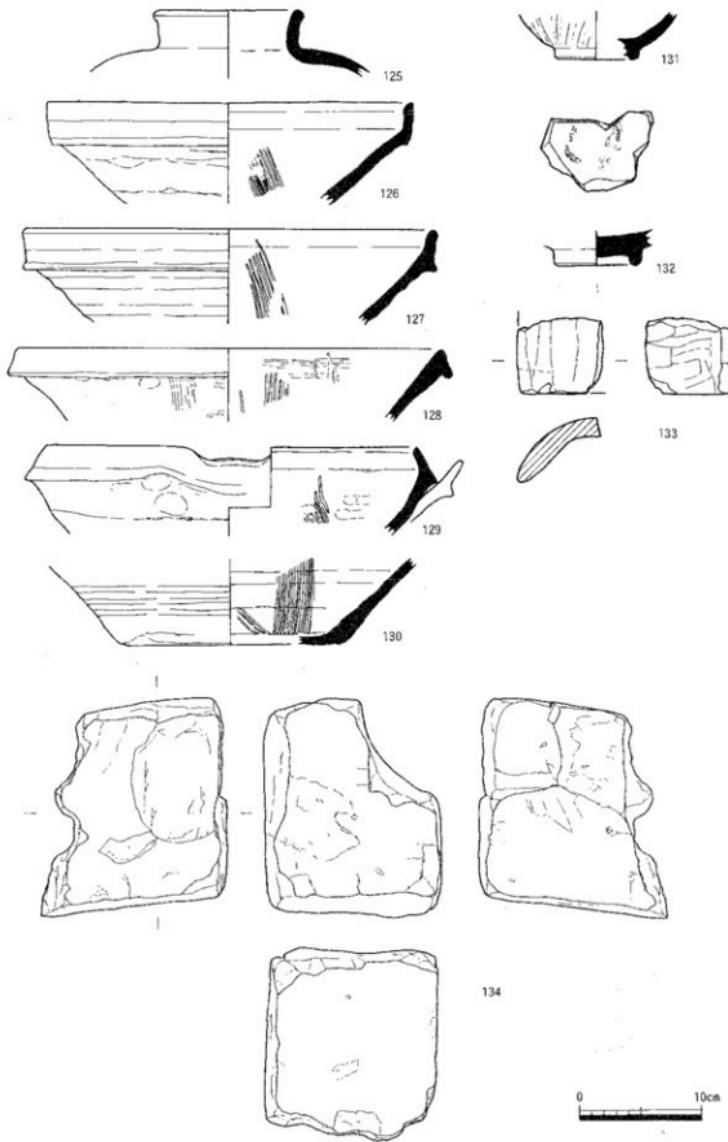
第15図 SD07出土遺物実測図



第16図 SE01および排水溝の礫群平面図



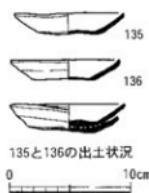
第17図 SE01出土遺物実測図①



第18図 SE01出土遺物実測図②

また、この井戸には、排水溝が付帯している。排水溝は、井戸から北北東へ向けてのびており、ちょうどSD03が途切れる箇所にあたる。SX01との切合関係は不明瞭で、終端は明確にできなかった。排水溝は、幅1~3.2m、深さ15cm、長さ9m以上を測る。埋土は、井戸と同じである。井戸および排水溝の埋土から、多量の縄群を検出している。井戸を埋め立てる際に、地面を固める目的で礫が投入されたものと推測される。

ピット 調査区ほぼ全域において合計194個のピット（柱穴跡）を検出した。ピットの大部分は、SD03が囲う方形区画内の北半と井戸の西側に集中しており、複数の建物が建っていたと推定できるが、ピットを組み合わせて建物を復元することはできなかった。ピットの平面は円形で、直徑、深さは第1表のとおりである。埋土は、褐灰色(10YR5/1)シルト質極細砂または黒褐色(2.5Y3/1)シルト質極細砂の單一層である。ピットの半数ほどには、柱を受ける根石や埋め戻し時の地固め用の石が確認できた。また、柱材の一部と考えられる炭化した木片も確認している。

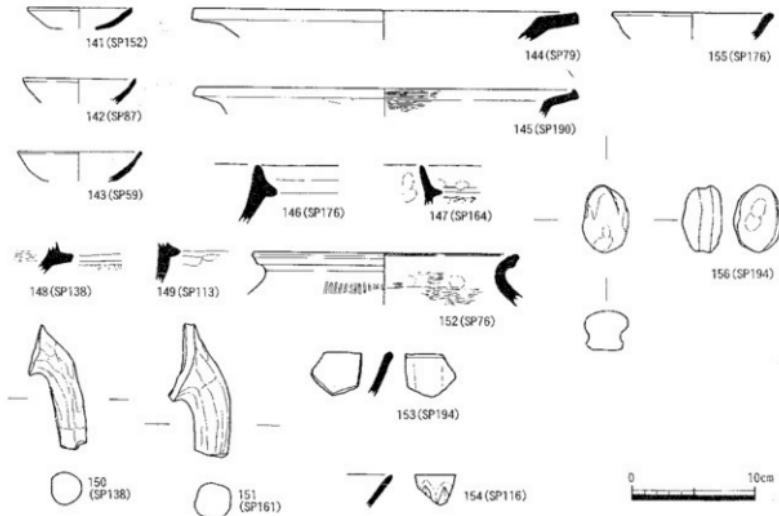


第19図 SP110出土遺物実測図

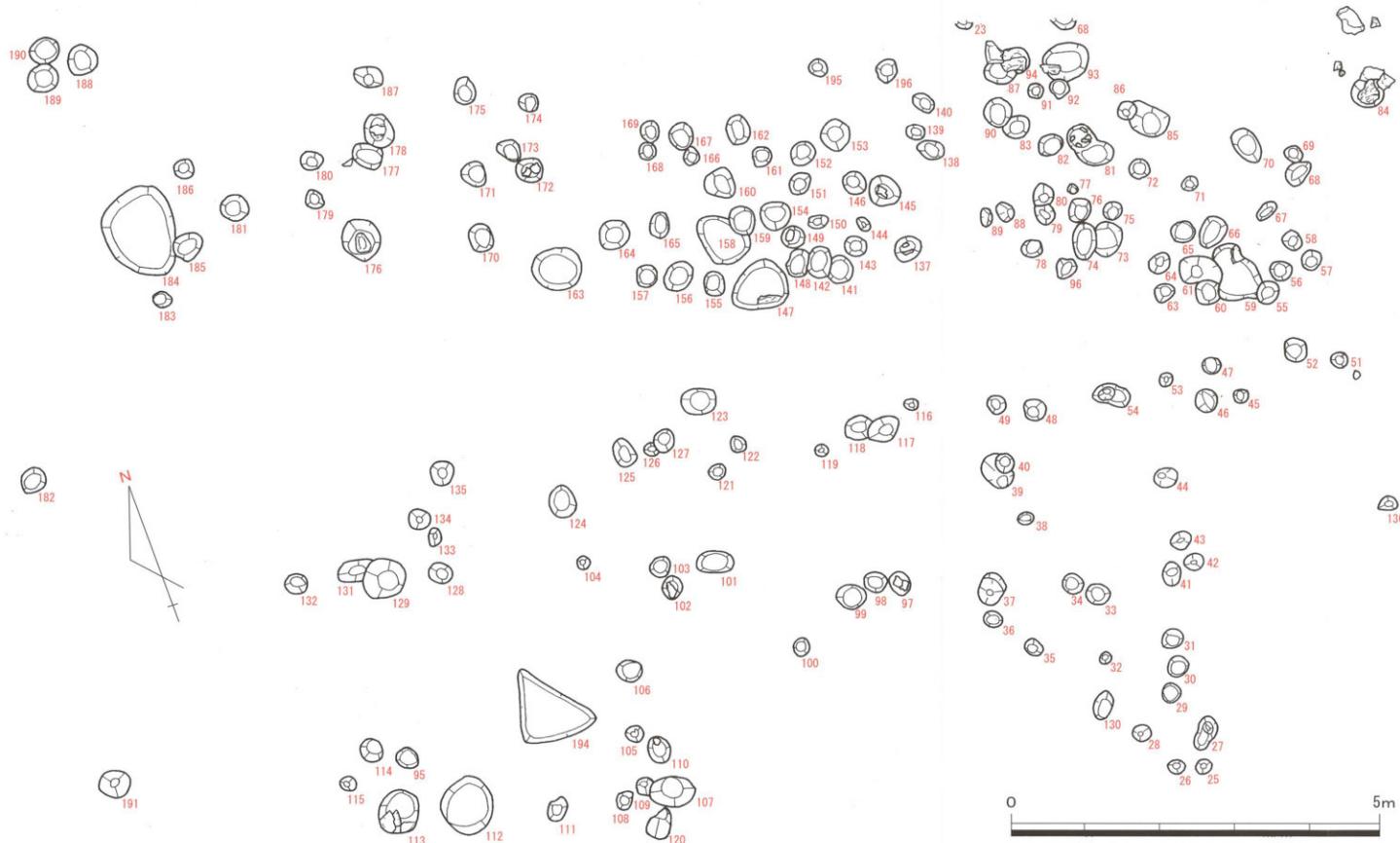
埋土より土師質上器杯・土鍋・羽釜・釜脚部、須恵器甕、中国産白磁碗・青磁碗、土鍾が出土している(第19~21図)。とくに、SP110からは土師質上器杯(第19図135・136)が2枚重なって出土しており、地鎮を目的とした祭祀遺構の可能性もある。また、SP112からは上器が一括で出土しており、土師質土器杯(第20図137~139)と中国産白磁碗(140)を見ることができる。



第20図 SP112出土遺物実測図



第21図 ピット(SP)出土遺物実測図



第22図 ピット平面図(SD03区画内)

※単位はcm

No.	長径	短径	深さ	備考
001	38	38	46.5	
002	30	30	5.8	
003	21	21	20.4	
004	31	31	4.8	
005	36	36	6.6	
006	20	20	11.6	
007	32	32	15.2	
008	23	20	8.3	
009	19	19	21.3	
010	14	11	3.1	
011	15	12	11.1	
012	21	20	14.7	
013	13	13	11.3	
014	20	20	11.4	
015	18	18	17.9	
016	24	19	3.2	
017	25	25	21.8	
018	19	19	28.5	
019	25	25	11.2	
020	19	19	13.0	
021	19	15	11.4	
022	69	69	27.6	
023	20	20	8.7	
024	24	24	6.9	
025	26	26	19.4	
026	20	20	14.9	
027	51	28	36.1	
028	25	24	9.9	
029	30	25	22.7	
030	30	27	8.8	
031	30	30	9.1	
032	17	15	10.5	
033	35	30	17.3	
034	30	28	24.9	
035	26	26	52.2	
036	26	25	21.8	
037	46	40	31.2	
038	23	16	20.5	
039	45	40	12.0	
040	25	25	23.0	
041	36	27	29.2	
042	25	25	24.1	
043	30	26	11.0	
044	27	25	11.0	
045	20	20	7.8	
046	35	29	19.4	
047	25	20	28.4	
054	47	30	6.2	
055	31	29	13.2	
056	29	29	19.5	
057	30	30	26.4	
058	28	25	16.6	
059	90	57	11.6	
060	38	32	16.3	
061	55	28	29.8	
062	28	28	11.7	
063	29	26	23.4	
064	36	30	23.2	
065	32	30	20.1	

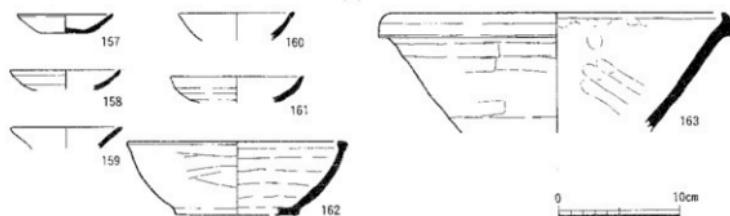
No.	長径	短径	深さ	備考
066	54	32	22.0	
067	32	20	15.1	
068	40	28	15.3	
069	25	19	19.2	
070	51	35	40.6	
071	21	18	17.5	
072	28	25	23.0	
073	50	34	12.8	
074	51	32	11.6	
075	26	23	17.3	
076	33	27	37.7	
077	13	12	14.6	
078	27	25	34.4	
079	27	25	12.9	
080	30	25	23.0	
081	68	38	39.2	
082	32	30	33.5	
083	32	32	32.0	
084	44	40	46.8	
085	62	45	46.9	
086	29	26	21.4	
087	41	30	23.8	
088	29	21	28.9	
089	29	16	13.4	
090	42	34	40.8	
091	21	20	14.9	
092	26	25	24.3	
093	60	55	20.4	
094	36	34	22.6	
095	31	26	10.6	
096	34	26	14.1	
097	36	31	34.4	
098	30	28	23.8	
099	40	36	15.8	
100	25	22	8.9	
101	50	35	12.0	
102	32	26	14.3	
103	30	28	30.1	
104	20	20	12.5	
105	26	26	18.2	
106	36	30	24.7	
107	60	40	18.8	
108	25	23	6.6	
109	22	20	45.0	
110	41	30	54.1	
111	30	30	26.8	
112	81	71	29.0	
119	19	16	18.1	
120	45	33	18.2	
121	21	20	6.9	
122	20	20	20.2	
123	48	40	15.5	
124	47	30	16.5	
125	39	29	13.7	
126	20	17	8.4	
127	33	27	29.4	
128	32	30	21.2	
129	60	60	33.8	
130	40	25	14.6	

No.	長径	短径	深さ	備考
131	39	31	19.3	
132	35	31	17.3	
133	29	17	7.0	
134	28	28	16.4	
135	36	33	19.2	
136	26	20	7.3	
137	37	35	26.6	
138	36	31	27.7	
139	27	27	19.2	
140	34	25	20.8	
141	40	32	14.9	
142	43	32	15.6	
143	30	30	22.4	
144	17	15	33.4	
145	45	37	35.6	
146	30	30	12.2	
147	82	66	18.1	
148	42	27	18.3	
149	32	30	22.1	
150	28	19	20.3	
151	35	28	26.0	
152	35	32	33.3	
153	44	41	38.2	
154	45	41	16.2	
155	34	33	10.9	
156	45	33	21.1	
157	30	28	32.6	
158	80	50	11.2	
159	41	38	16.5	
160	45	41	27.2	
161	29	27	17.8	
162	41	34	41.5	
163	70	61	11.5	
164	42	39	46.7	
165	31	26	12.0	
166	23	18	49.3	
167	36	32	28.3	
168	24	22	43.2	
169	30	26	26.6	
170	40	33	19.5	
171	36	35	24.5	
172	37	33	52.7	
173	33	24	23.4	
174	27	25	20.8	
175	36	25	25.1	
176	61	52	37.9	
177	44	31	49.1	
184	125	100	10.6	
185	41	39	28.0	
186	29	27	17.0	
187	40	18	33.4	
188	45	37	10.4	
189	40	40	18.8	
190	39	37	8.3	
191	44	39	15.8	
192	—	—	—	
193	—	—	—	
194	134	84	4.0	
195	25	20	32.4	
196	30	26	19.7	

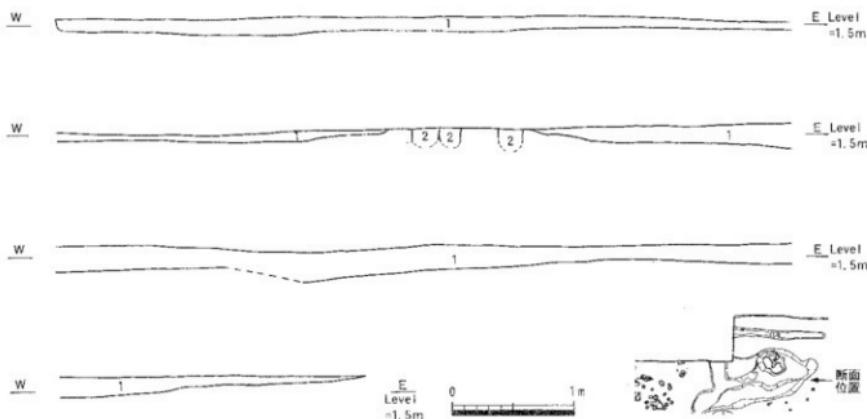
第1表 ピット一覧表

SX01 調査区北端で検出した不明遺構である。遺構状の窪みが見られるが、平面形は明らかにすることができなかった。東西幅約20m、南北幅約4m±50cm、深さ20cmを測る。埋土は、黄灰色(2.5Y4/1)砂質シルトの單一層である。埋土より土師質土器杯、東播系須恵器碗・こね鉢が出土している(第23図)。土師質土器杯(157~161)の器高は1.5cmと低いものがあり、SD03出土のものに近い。一方、東播系須恵器碗(162)は、底部内面(見込み部)には凹みを作らないが、口縁部を肥厚させ、器壁はやや内湾していることから、森田編年II-1期にあたり12世紀中葉~後半と想定できる(森田1995)。こね鉢(163)は、口縁端部を上下に拡張しており、森田編年III-2にあたりことから14世紀前半と想定できる(森田1995)。

このようにSX01は東播系須恵器のように12世紀中葉~後半や14世紀前半といった古い時期の遺物と、上師質土器杯のように15世紀後半~16世紀代の新しい遺物との両方を含んでいる。これは、SX01を切る形でピット群が多数存在していることを考慮すると、SX01は少なくとも14世紀前半に埋没し、後の15世紀後半以降にピットが多数掘削されたため、新しい時期の遺物が混入した可能性がある。



第23図 SX01出土遺物実測図



1 黄灰色砂質シルト Hue2.5Y4/1

2 黒褐色シルト質極細砂 Hue2.5Y3/1

第24図 SX01断面土層図

S X 02 調査区西端で検出した土器溜まり遺構である。東西に長い楕円形を呈し、検出面で東西485cm、南北180cm、深さは50cmを測る。埋土は第25図のように6層に分層が可能である。埋土より土師質土器杯・擂鉢・土鍋、中国産青磁碗、上鍤、亀山焼壺、備前焼壺・擂鉢が出土している(第27図)。ただし、これら遺物の出土層位については、発掘時に層位ごとに取り上げることができなかつたため、一括して扱う。

土師質土器杯(164)の口径は18.4cmと大型のものである。擂鉢(165)は、口縁部が丸みを帯び狭くなり、内面御目が3条と少ない。国分寺補井遺跡の例を引用すれば、擂鉢は佐藤編年のⅢ期にあたり、15世紀中葉～16世紀前半と想定できる(佐藤1995)。羽釜(166)は、鍔の退化が著しく片桐編年のⅢ～7～8期にあたり、16世紀前葉～中葉と想定される(片桐1992)。

中国産青磁碗口縁部(167)は、端部を外反させ丸く仕上げており、内外面とも無文である。これが、上田編年のD～II類に該当するなら、14世紀末から15世紀初頭と想定できる(上田1982)。

土鍤は(168)、円筒形で繩を通す穴をもつものである。

亀山焼壺(169・170)のうち、169は頸部が「く」の字形に強く屈曲し、体部外面に細かい格子目の叩き痕を有しており、伊藤編年の亀山焼第2群にあたることから13世紀と想定される(伊藤1987)。一方、170は頸部が緩く屈曲し、体部外面に荒い格子目の叩き痕を有しており、伊藤編年の亀山焼第4群にあたることから15世紀後半から16世紀と想定される(伊藤1987)。

備前焼は、壺(171～173)、擂鉢(174)が出土している。備前焼壺は、口縁部が直立して立ち上がり、端部に小さな玉縁を作っている。備前焼擂鉢は、口縁端部を上に大きく拡張している。これら備前焼は間堀編年のIV期にあたり、15世紀と想定される(岡田1966～68・81)。

以上のように、SX02の出土遺物は少量の古い時期のものが混在するが、SD03やSE01とはほぼ同じ様相を呈しており、15世紀後半から16世紀の年代が推測できる。



1 黄灰色シルト質極細砂	Hue2.5Y4/1	4 灰色砂混粘土	Hue5Y4/1
2 灰色粘質シルト	Hue10Y5/1	5 黒色砂混粘土	Hue2.5Y2/1
3 淡灰色粘質シルト (淡黄色粘土(Hue2.5Y8/3)のブロックを含む)	Hue10YR5/1	6 黒色粘土	Hue5Y2/1

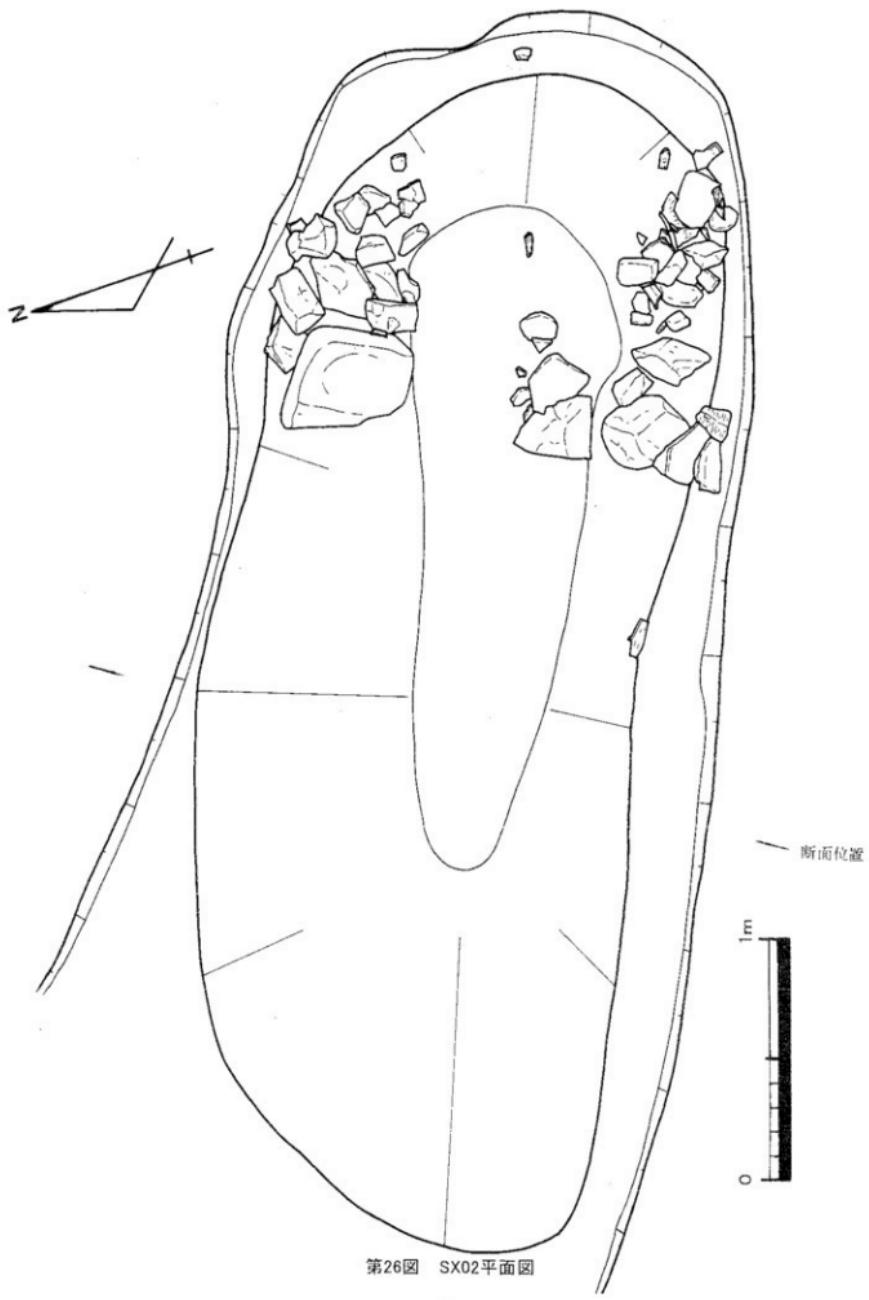
第25図 SX02断面図

近世遺物包含層

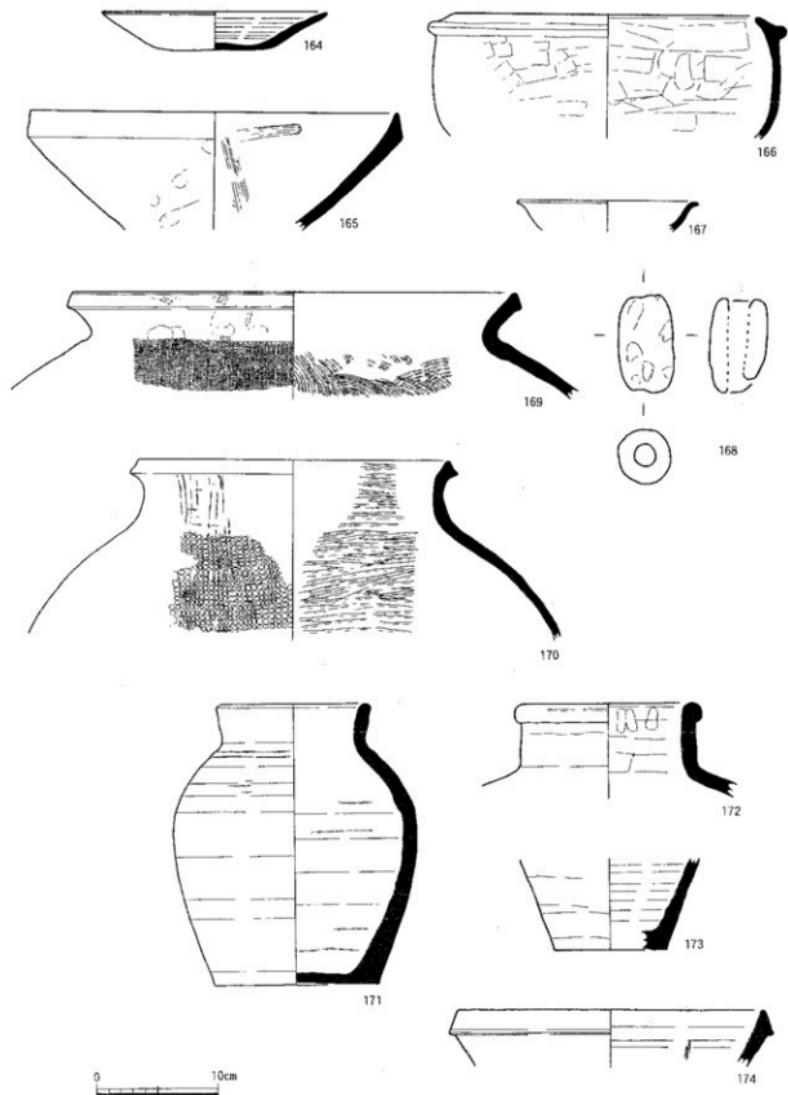
遺構に伴出するものではないが、近世遺物包含層からも遺物が多数出土している。土師質土器擂鉢・羽釜、肥前系陶器講縁皿・鉄絵皿・碗・鉢、備前焼壺、京信楽系陶器碗、中国産青磁碗・皿、中国産白磁碗、中国産青白磁碗・壺、土鍤、面子、銅錢(第28・29図)などが出土している。

土師質土器擂鉢(175～177)は、口縁部が丸みを帯び狭くなり、内面御目が4条と少ない。国分寺補井遺跡の例を引用すれば、佐藤編年のⅢ期にあたり、15世紀中葉～16世紀前半と想定できる(佐藤1995)。羽釜(176)は、三足の脚が付くもので、鍔の退化が著しく片桐編年のⅢ～7～8期にあたり、16世紀前葉～中葉と想定される(片桐1992)。

岡田陶器としては、まず肥前系陶器講縁皿(179)、皿(180・184・187・188)、鉄絵皿(181)、碗(182・183・185)、鉢(186)を見ることができる。肥前系陶器は、どれも江戸時代以降の所産と考えられる。



第26図 SX02平面図



第27図 SX02出土遺物実測図

備前焼小壺(189)は、底部の破片で、体部は丸みをおびる。間壁編年のIV期にあたり、15世紀頃と想定される（岡田1966～68・84）。

国産陶器としては、ほかに京信楽系陶器碗(190・191)がある。江戸時代以降の所産と考えられる。產地不明の国産陶器として、皿(192)・碗(193)が見られる。

中国産青磁碗(194)は、いわゆる飴色ガラス質の釉をもつもので同安窯系と考えられる。青磁碗(195)は、外反する口縁部の破片である。青磁碗(196)は、龍泉窯系で片切形の蓮弁をもつが、蓮弁の盛り上がりを欠いており上田編年のB-I類に該当し、14世紀末から15世紀初頭と想定できる（上田1982）。青磁碗(197)も、同じ龍泉窯系だが、幅広い片切形の蓮弁をもち、蓮弁の筋と間弁ももつことから上田編年のB-I類に該当し、13世紀末から14世紀初頭と想定できる（上田1982）。青磁盤(198)は、口縁部を「く」の字状に折り曲げ、内面に文様を有する。白磁碗(199)は、玉縁をもつ口縁部の破片で、横田・森田編年のIV類に該当し12世紀頃には出現している（横田・森田1978）。白磁底部片(200)は、内底見込みの釉を和状に極き取ったもので、横田・森田編年のⅢ類に該当し12世紀中頃には出現している（横田・森田1978）。青白磁碗底部片(201)は、外面に草花文をあしらっている。青白磁壺口縁部片(202)も、外面に草花文をあしらっている。

上鍤(203・204)は、やや先の尖る楕円形を呈し、横に縄をかける溝をもつ。

面子(205)は、備前焼の破片を直径4.6～5.0cmの円形に加工して、再利用したものである。

銅製品(206)は、断面蕭鋌型の棒が弧を描きながらのび、先端が鉗形に開く形を呈しているが、用途は不明である。

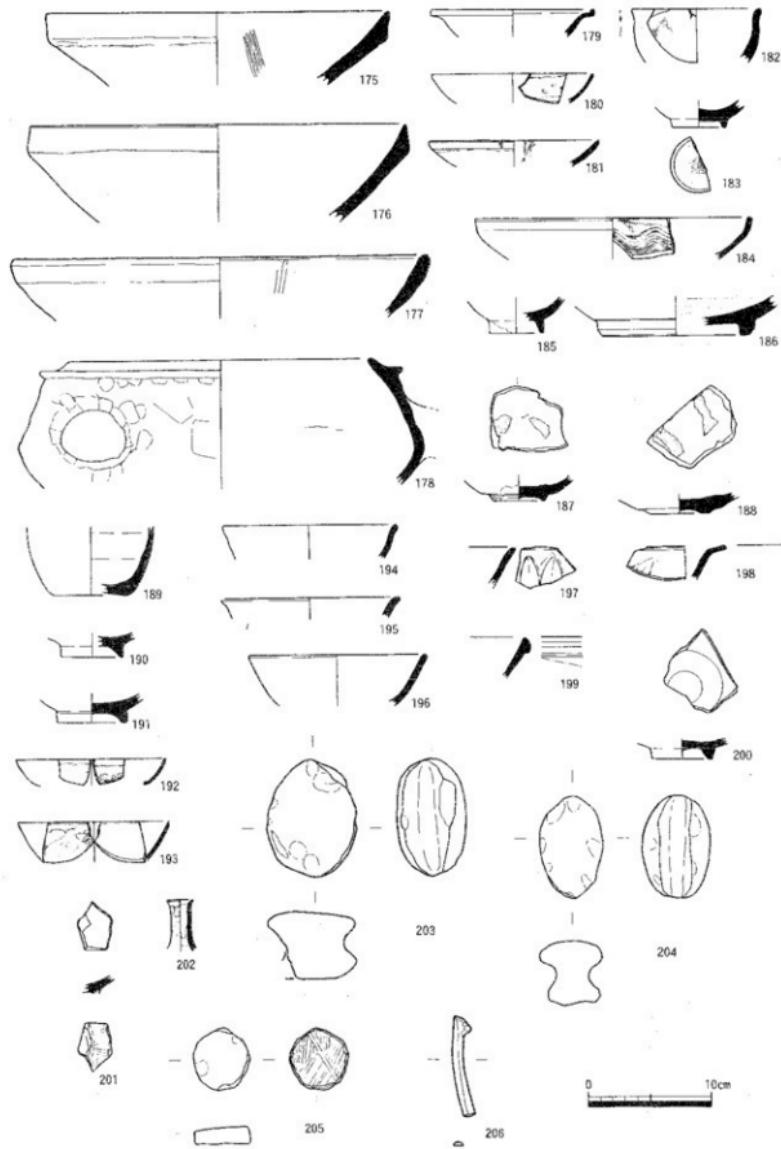
銅銭は、北宋錢が5枚、寛永通寶が1枚ある。至道元寶(207・208)は2種類出土しており、207より208の「至道」の字がくずれている。至道元年は西暦995年にあたり、北宋皇帝太宗治世下にあたる。祥符元寶(209)は、北宋皇帝真宗治世下の鑄造で、大中祥符元年は西暦1008年にあたる。元豐通寶(210)は、北宋皇帝神宗治世下の鑄造で、元豐元年は西暦1078年にあたる。聖宋元寶(211)は、北宋皇帝徽宗治世最初の鑄造銭であり、建中靖国元年は、西暦1101年にあたる。寛永通寶(211)は、寛永13年(西暦1636年)以降、江戸時代を通して盛んに鑄造されたものである。

註

- 1) 土師質土器と分類した標録の中には、焼成が須恵質・瓦質のものもあるが、一括して土師質土器の中に分類し、観察表の備考欄に焼成状態を記した。これは、生産遺跡である国分寺舎井遺跡（佐藤龍馬1995『国分寺舎井遺跡』香川県教育委員会）で明らかのように、同一形態・同一手法で製作しているながら、焼成段階で土師質・須恵質・瓦質の3種に分かれるからである。ただし、同遺跡で生産していた他の器種は土師質焼成が圧倒的であるため、ここでは土師質土器として分類した。

参考文献

- 伊藤晃1987「窯業」『岡山県の考古学』吉川弘文館
上田秀夫1982「14～16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究』No.2
片桐孝浩1992「考察－古代から中世にかけての土器様相－」『川津元結木遺跡』香川県教育委員会
佐藤龍馬1995「舎井産土器の編年」『国分寺舎井遺跡』香川県教育委員会
中野晴久1995「常滑・瀬戸窯」『概説中世の土器・陶磁器』中世土器研究会編
藤沢良祐1993「瀬戸・美濃大窯の編年」『瀬戸市史』陶磁史篇
間壁忠彦・間壁茂子1966～68・84「備前焼研究ノート」1～5『倉敷考古館研究集報』1・2・5・18号
森田稔1995「中世須恵器」『概説中世の土器・陶磁器』中世土器研究会編
横田賢次郎・森出勉1978「大宰府出土の輸入中国陶磁器について」『九州歴史資料館研究論集』4



第28図 近世遺物包含層出土遺物実測図



— 207



— 209



— 211



— 208



— 210



— 212



第29図 近世遺物包含層出土銅錢実測図

第4章 まとめ

第1節 遺構の変遷

調査区内の遺構は、すべて同一遺構面で検出したため、層位ごとではなく、出土遺物や遺構の切合から3時期に分けることが可能である。

第Ⅰ期は、SX01のみが該当する。出土した東播系須恵器から、12世紀中葉～14世紀前半の時期が想定される。この時期の遺構はSX01のみなので、詳細は不明であるが、少なくとも鎌倉時代頃には本津川などの沖積により陸地化しており、人の活動が営まれていたことが明らかである。また、当該地点より南約600mに位置する香西南西打遺跡（高松港頭地区再開発関連事業分）では、同じ時期の遺構・遺物が存在しており、関連があるものと推測される。また、この香西南西打遺跡（高松港頭地区再開発関連事業分）は扇状地の末端に位置し、旧石器が出土していることから、早くから安定した土地であったことを知ることができるが、これに対して当該地点は砂層をベースにした新しい沖積地であったと推定される。

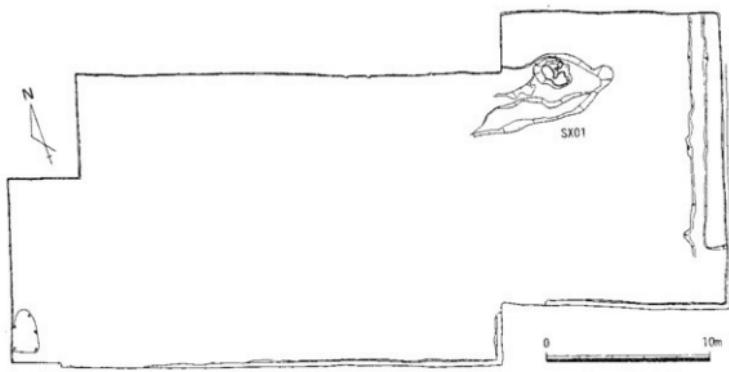
第Ⅱ期は、SD02・SD03・SE01・ピット群・SX02から構成され、15世紀後半～16世紀中葉を中心とした時期で、遺構が完全に埋没するのは17世紀初頭と考えられる。SD03は、調査区内では平面「コ」字形を呈するが、本来は平面「匁」字形であったと考えられ、SE01・ピット群・SX02はこのSD03に囲まれた区画内に展開する。つまり、SD03は屋敷地を区画する溝であり、屋敷地の南東隅に井戸を設け、屋敷地中央（調査地北側）に掘建柱建物を建て居住していたと想定できる。また、SD03東側の一部が途切れしており、屋敷地の東側に出入り口があったとも考えられるが、井戸の排水溝がこの部分に延びており、現段階では判断できない。

一方、約200個検出したピットだが、今回はピットの組み合わせによる建物の復原ができなかったものの、複数の建物が建てられ、さらに複数回の建て直しがされたと推測できる。これは、この地が湧水が激しい場所であることを考慮すると、掘建柱建物は柱材の腐食によってかなり頻繁な建て替えを余儀なくされたと想定できる。実際、ピット中より検出された炭化木質片はこの腐食を防ぐために柱材を焼いたものとも考えられる。

また、屋敷地南西隅で検出されたSX02からは土器片がまとまって出土しており、このSX02はごみ捨て穴であった可能性もある。

ちなみに、付近に残る条里地割との関係は、SD03東側は香川郡10条20里16坪中線想定線より東15mに位置し、SD03南側は香川郡10条20里16・21坪界想定線より南24mに位置し、SD03西側は香川郡10条20里16坪中線想定線より西15mに位置する。

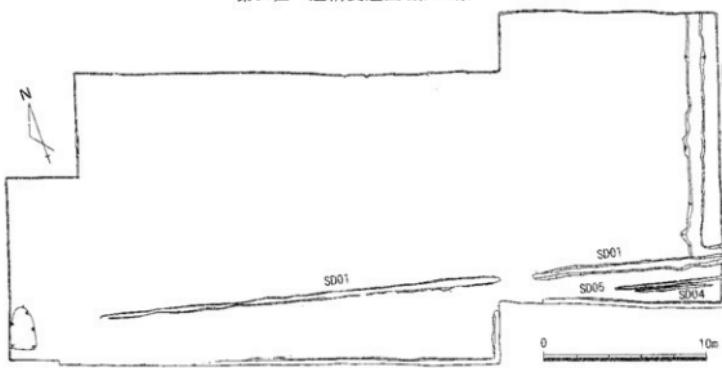
第Ⅲ期は、SD01・SD04・SD05である。SD01はSD03が埋没した後に掘削された溝であり、また江戸時代後期の陶磁器を含む遺物包含層より下位にあることから、江戸時代の範疇に収まる。SD04・SD05は出土遺物がないがSD01と方位を同じくし、埋土も似ていることから当該時期と考えられる。小規模な溝しか認められず、この時期は居住域ではなくなっていたようである。



第30図 遺構変遷図(第Ⅰ期)



第31図 遺構変遷図(第Ⅱ期)



第32図 遺構変遷図(第Ⅲ期)

第2節 香西南西打遺跡と香西氏について

当該遺跡で検出した屋敷地は、出土遺物から15世紀後半～16世紀中葉を中心とした時期である。この中世末期いわゆる戦国時代に、遺跡が所在する香西の地で最も活躍した氏族は香西氏をおいて他におらず、検出した屋敷地も香西氏に関わる者の居館であったと容易に推測できよう。

香西氏は、阿野・香川郡を領地として活躍した武将で、勝賀山（鬼無町是竹・中山町）に城を築き、その東麓にあたる佐料（鬼無町佐料）に居館を置いた。全盛期には備讃瀬戸の海上権も握り、笠居郷周辺一族の城約10ヶ所、武将の出城40余があったことが『南海治乱記』『南海通記』などから知られる。応仁・文明の乱(1467～77年)では、香川・奈良・安富氏とともに細川四天王として活躍した。戦国時代には三好氏に属し、のちに長宗我部元親に従った。ちなみに、勝賀山城は当該遺跡から西に約1.7kmの位置にあり、佐料城は南南西約1.1kmと至近距離にある。

この香西氏を経済的に支えたのは、『兵庫北関入船納帳』(文安2年(1445))にも記されている香西浦であり、活発な商業活動が行われていたと推測される。当該遺跡は、まさにこの香西浦に近接しており、実際に出土した遺物を概観すると、大量の備前焼をはじめ、北宋銭の出土、中国産陶磁器もかなりの割合を占めることから、香西浦の活発な商業活動を裏付けている。その一方で、漁に使用したと推測される土錘も數十点出土しており、漁業活動も行われていたことが伺える。

香西氏は、天正年間に本拠地を勝賀山城・佐料城から香西浦に面した藤尾城（香西本町）に移しており、これは経済活動に香西氏が重点をおいた意味を持つと考えられる。この藤尾城は、当該遺跡からわずか北西に600mしか離れていない。しかし、隆盛を誇った香西氏も、天正13年(1585)豊臣秀吉の四国攻めを最期に滅亡した。この四国攻めの少し前、天正10年8月の長宗我部元親軍による香西氏攻めでは、藤尾城周辺は激戦地となっている。そして、天正13年には香西氏が居城藤尾城から西長尾城（綾歌郡綾歌町）に移っている。

これら香西氏の動向と香西南西打遺跡で検出した屋敷と推測される遺構を比較すると、一致した動きを示している。応仁・文明の乱以降、香西氏は畿内や備前国まで出兵するほど勢力を築いており、香西浦は『兵庫北関入船納帳』に記されているように重要な拠点であった。そして、天正13年を最期に香西氏が滅亡する。まさに、屋敷遺構の存続年代である15世紀後半～16世紀中葉を中心とした時期と香西氏の盛衰は一致する。同時に、この遺跡は香西氏の香西浦での経済活動の一端を示しているといえよう。

参考文献

- 秋山忠1982『高松市の文化財第7編 古城跡を訪ねて』高松市歴史民俗協会・高松市文化財保護協会
井伊春樹訳1981 香西成資著『南海治乱記』教育社
香西成資1718『南海通記』（『戦記資料 南海通記 四国軍記』歴史図書社1976所収）

第2表 SD 02出土遺物観察表

鉢団番号	器種	法量(cm)			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
第6回 1	土師質土器 杯	9.0	4.0	2.1	外面 ナデ 内面 ナデ 底部外面 ヘラ切り	外面:5YR7/3にぶい橙 内面:5YR7/2明褐灰	1mm以下の長石、石英を含む	
2	土師質土器 杯	9.4		(1.8)	外面 ナデ 内面 ナデ	外面:5YR8/4にぶい橙 内面:5YR7/6橙	微砂	
3	土師質土器 杯	10.0		1.7	外面 ナデ 内面 ナデ	外面:5YR8/2灰白 内面:5YR7/4にぶい橙	微砂	
4	備前焼 皿	10.4	6.2	2.6	外面 ナデ 内面 ナデ 底部外面 糸切り	外面:2.5YR5/4にぶい赤褐 内面:2.5YR5/3にぶい赤褐	微砂	
5	土師質土器 杯		5.6	(1.1)	外面 ナデ 内面 ナデ 底部外面 ヘラ切り	外面:10YR8/1灰白 内面:10YR8/1灰白	1mm以下の長石、石英を含む	

第3表 SD 03上層出土遺物観察表

鉢団番号	器種	法量(cm)			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
第8回 6	土師質土器 小皿	7.6	6.4	0.95	外面 ナデ 内面 ナデ 底部外面 糸切り	外面:2.5YR8/2灰白 内面:2.5YR8/2灰白	微砂	
7	土師質土器 杯	9.4		1.35	外面 ナデ 内面 ナデ	外面:5YR8/2灰白 内面:7.5YR8/2灰白	1mm以下の長石を含む	
8	土師質土器 杯	9.0		1.5	外面 ナデ 内面 ナデ	外面:10YR8/2灰白 内面:10YR8/2灰白	微砂	
9	土師質土器 杯	8.8		1.5	外面 ナデ 内面 ナデ	外面:7.5YR7/4にぶい橙 内面:7.5YR7/4にぶい橙	2mm以下の石英、長石を含む	
10	土師質土器 杯	9.4	5.4	1.75	外面 ナデ 内面 ナデ 底部外面 ヘラ切り後ナデ	外面:7.5YR8/4淡黄橙 内面:7.5YR7/4にぶい橙	微砂	
11	土師質土器 擂鉢	23.2		(5.6)	外面 ナデ 内面 ナデ	外面:10Y7/1灰白 内面:10Y7/1灰白	微～細砂 1mm以下の石英、長石を含む	須恵質
12	土師質土器 擂鉢	30.8		(5.5)	外面 指押さえ後ナデ 内面 ナデ ハケ目 内面 条痕3条	外面:2.5Y8/2灰白 内面:5Y8/1灰白	細～粗砂 1mm以下の石英、長石を含む	土師質
13	土師質土器 擂鉢	30.8		(5.5)	外面 ナデ 内面 ナデ 内面 条痕1条	外面:N8/0灰白 内面:N8/0灰白	2mm以下の石英、長石を含む	須恵質
14	土師質土器 擂鉢	31.8		(4.7)	外面 ナデ接合痕 内面 摩滅の為調整不明	外面:10YR6/3にぶい 内面:黄橙	細～粗砂 1mm以下の石英、長石を含む	瓦質
15	土師質土器 擂鉢	33.2		(7.6)	口縁部外面 横ナデ 内面 横ナデ 体部外面 指押さえ後ナデ 内面 ナデ条痕3条	外面:N8/0灰 内面:N8/0灰白	細～粗砂 1mm以下の石英、長石を含む	須恵質

押 国 番号	器種	法量(cm)			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	底径	高さ				
第8図 16	土師質土器 土 鍋	41.0		(11.6)	外面 ナデ 内面 ナデ	外面:10YR6/2灰黄褐色 内面:7.5YR6/3にぶい褐色	細～粗 2mm以下の石英、長石 角閃石を含む	外面 媒付着
17	土師質土器 羽 篓	17.2		(7.4)	外面 指押され後ナデ、ハケ目 内面 指押され後ナデ 接合痕ヘラナデ	外面:10YR6/3にぶい黃褐色 内面:2.5Y7/2灰黄	細～粗砂 3mm以下の石英、長石 を少量含む	外面 媒付着
18	土師質土器 土 鍋	27.5		(5.2)	外面 ナデ 内面 ナデ	外面:10YR4/1褐色 内面:10YR5/1褐色	微～粗砂 2mm以下の石英、長石 を少量含む	
19	土師質土器 羽 篓	30.6		(6.7)	外面 ナデ 内面 ナデ	外面:7.5YR7/4にぶい橙褐色 内面:7.5YR7/4にぶい橙褐色	微～粗 1mm以下の石英、長石 を含む	外面 媒付着
20	土師質土器 茶 篓	14.4		(7.4)	外面 ナデ 内面 ナデ 底部外面 粗い格子目の印き痕	外面:10YR8/2灰白 内面:10YR7/2にぶい 黃褐色	細～粗 3mm以下の石英、長石 を少量含む	体部外面 媒付着
21	土師質土器 甕			17.0 (5.7)	外面 ナデ 内面 ナデ	外面:10YR6/3にぶい黃褐色 内面:10YR6/3にぶい黃褐色	細～粗砂 2mm以下の長石、角閃 石を含む	
22	土師質土器 釜 脚部	(長さ) 21.1	(幅) 2.7	(厚さ) 2.9	外面 ナデ、ハケ目、 指頭圧痕	外面:7.5YR4/3褐色	細～粗砂 微砂粒を多く含む	
23	土師質土器 釜 脚部	(長さ) 17.9	(幅) 2.3	(厚さ) 2.1	外面 ナデ	外面:10YR3/2黒褐色	微砂 微砂粒を若干含む	
第9図 24	亀山焼須恵器 甕			(5.0)	外面 磁感の為調整不明 内面 磁感の為調整不明	外面:N6/ 灰 内面:N8/ 灰白	密	
25	須恵質土器 茶 篓	16.2		(4.0)	外面 ナデ 内面 ナデ 体部外面 印花文	外面:N7/ 灰白 内面:N7/ 灰白	微～粗 1mm以下の石英、長石 角閃石を含む	
26	須恵質土器 茶 篓	18.0		(6.6)	外面 ナデ 内面 ナデ 外側上半部 印花文	外面:2.5GY6/1村-7' 灰 内面:N6/0灰	微～粗砂 3mm以下の石英を若干 含む	
27	備前焼 甕	11.0		(2.8)	外面 ナデ 内面 ナデ	外面:7.5YR5/2灰褐色 内面:7.5YR5/1褐色	密	
28	備前焼 壺	18.0		(3.3)	外面 ナデ 内面 ナデ 体部上部 雜斑線文5本1条、波状文	外面:10RS/3赤褐色 内面:2.5YRS/2灰赤	微砂粒を含む	体部外面 釉付着
29	備前焼 壺	18.8		(8.8)	外面 ナデ 内面 ナデ	外面:10RS/3赤褐色 内面:10RS/2灰赤	微砂 1mm以下の長石を少量 含む	
30	備前焼 甕	31.8		(5.0)	外面 ナデ 内面 ナデ	外面:7.5YR5/1褐色 内面:7.5YR5/1褐色	微～粗砂 1mm以下の長石を少量 含む	
31	備前焼 擂鉢	21.2		(5.7)	外面 ナデ 内面 ナデ 接合痕	外面:N5/0灰 内面:N6/0灰	精良	

検査 番号	器種	法星 (cm)			形態・手法の特徴	色調	胎上	備考
		口径	近径	器高				
第9回 32	備前焼 擂鉢	21.2		(5.7)	外面 ナデ 内面 ナデ 内面 条溝	外面:5YR2/1黒褐 内面:7.5YR4/3褐	精良	
33	備前焼 擂鉢	25.8		(7.9)	外面 ナデ 接合痕 内面 ナデ 内面 条溝	外面:10R5/3赤褐 内面:5YR4/3赤褐	精良	
34	備前焼 擂鉢	29.0		(10.2)	外面 ナデ 内面 ナデ 体部内面 条溝	外面:2.5Y5/3にぶい赤褐 内面:2.5Y5/3にぶい赤褐	細～粗 1mm以下の長石を含む	
35	備前焼 擂鉢	28.0		(7.3)	外面 ナデ 接合痕 内面 ナデ 内面 条溝	外面:10R4/2灰赤 内面:10R4/1暗赤灰	精良	
36	備前焼 擂鉢	33.8		(4.6)	外面 ナデ 接合痕 内面 ナデ 接合痕	外面:2.5YR6/2灰赤 内面:2.5YR5/3にぶい赤褐	精良	
37	備前焼 擂鉢		16.8	(5.9)	外面 ナデ 接合痕 内面 ナデ 内面 条溝	外面:2.5YR5/3にぶい赤褐 内面:5YR5/2灰褐	精良	使用による 摩耗顕著
第10回 38	備前焼 壺	36.4	32.2	71.0	外面 ナデ 内面 ナデ 接合痕	外面:2.5YR3/1暗赤灰 内面:2.5YR3/1暗赤灰	良	
39	備前焼 壺	35.0		(10.9)	外面 ナデ 内面 ナデ	外面:2.5YR5/1赤灰 内面:2.5YR3/3にぶい赤褐	良	
第11回 40	瀬戸美濃系陶器 天目茶碗		7.2	(5.7)	外面 ナデ 内面 ナデ	外面:10R4/2灰赤 内面:2.5Y2/1黒 素地:5Y8/1灰白	密	
41	瀬戸美濃系陶器 天目茶碗	11.4		(3.9)	外面 ナデ 内面 ナデ	外面:10R7/2にぶい黄橙 内面:5YR3/3暗赤褐	精良	
42	瀬戸美濃系陶器 天目茶碗		4.0	(2.3)	外面 ナデ 内面 ナデ	外面:2.5YR5/3にぶい黄 内面:2.5Y2/1黒 素地:7.5Y8/1灰白	密	
43	唐津灰釉 溝縁皿	14.6		(1.9)	外面 ナデ 施釉 内面 ナデ 施釉	素地:8/2灰白	精良	
44	中国産青磁 碗			(3.9)	外面 ナデ 内面 ナデ 外側 菊蓮弁 内面 花紋	素地:7.5Y7/1灰白 輪:7.5Y4/1灰 模様の色:7.5Y3/1付ア黒	精良	龍泉窯系
45	中国産青磁 碗	6.2		(2.4)	外面 ナデ 内面 ナデ	素地:N8/0灰白 輪:10Y5/2オリーブ灰	密	内外面 施釉
46	丸瓦	(横幅) 5.1	(幅) 7.0	(厚さ) 2.1	凸 繩叩き後 ナデ 凹 布目 ナデ	外面:5YR7/4にぶい橙 内面:7.5YR7/4にぶい橙	1mm以下の石英、長石 を含む	土師質
47	土鍾	(横幅) 10.6	(幅) 6.9	(高さ) (4.5)	外面 ナデ 指頭圧痕	外面:5YR7/6盤	微～細砂 2mm以下の石英、長石 を含む	315.7 g

拂団 番号	器種	法量(cm)			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
第11図 48	土鍾	(長さ) 7.0	(幅) 5.3	(厚さ) 5.2	外面 ナデ	外面:7.5YR5/6明褐色 5mm以下の長石を多く含む	細砂	(重さ) 187.3g
49	土鍾	(長さ) 8.6	(幅) 6.8	(厚さ) 4.9	外面 摩滅の為調整不明	外面:10YR7/3にぶい黄橙	細～粗砂 2mm以下の石英、長石を多く含む	(重さ) 262.3g
50	土鍾	(長さ) 5.3	(幅) 3.5	(厚さ) 3.0	外面 ナデ	外面:10YR7/2にぶい黄橙 微砂粒を多量に含む	粗砂	(重さ) 23.2g

第4表 SD03下層出土遺物観察表

拂団 番号	器種	法量(cm)			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
第12図 51	土師質土器 小皿	5.8	4.0	1.7	外面 ナデ 内面 ナデ 底面 回転糸切り	外面:10YR8/3淡黄橙 内面:10YR8/3淡黄橙	微砂	
52	土師質土器 小皿	6.5	5.0	1.1	外面 ナデ 内面 ナデ 底面 回転糸切り	外面:5YR7/4にぶい橙 内面:5YR7/4にぶい橙	微砂	
53	土師質土器 杯	9.2	5.3	2.1	外面 ナデ 内面 ナデ 底面 ヘラ切り後ナデ	外面:2.5YR7/3淡赤橙 内面:2.5YR6/4にぶい橙	微砂	
54	土師質土器 杯	9.4	5.4	2.0	外面 ナデ 内面 ナデ 底面 回転糸切り後ヘラナデ	外面:10YR8/2灰白 内面:10YR8/2灰白	微砂	
55	土師質土器 杯	8.0		1.2	外面 ナデ 内面 ナデ	外面:2.5Y6/1黄灰 内面:2.5Y8/2灰白	微砂	
56	土師質土器 杯	8.2		1.2	外面 ナデ 内面 ナデ	外面:7.5YR8/3淡黄橙 内面:7.5YR8/1灰白	微砂	
57	土師質土器 杯	8.2	5.0	1.5	外面 ナデ 内面 ナデ 底面 ヘラ切りのち丁寧なナデ	外面:7.5YR7/6橙 内面:7.5YR7/6橙	微～細砂 2mm以下の石英を含む	
58	土師質土器 杯	8.8		1.6	外面 ナデ 内面 ナデ	外面:5YR8/4淡橙 内面:5YR8/3淡橙	微砂	
59	土師質土器 杯	9.0	4.3	1.8	外面 ナデ 内面 ナデ	外面:5YR7/4にぶい橙 内面:5YR7/6橙	2mm以下の長石、石英を含む	
60	土師質土器 杯	9.3		2.0	外面 ナデ 内面 ナデ	外面:5YR8/3淡橙 内面:7.5YR7/1明褐灰	微砂	
61	土師質土器 杯	9.8		2.2	外面 ナデ 内面 ナデ	外面:2.5Y6/1黄灰 内面:2.5Y6/1黄灰	微砂	
62	土師質土器 杯	9.8		2.3	外面 ナデ 内面 ナデ	外面:7.5YR8/3淡黄橙 内面:7.5YR8/3淡黄橙	微砂	

掲図 番号	器種	法寸(cm)			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
第12図 63	土師質土器 杯	10.5		2.9	外面 ナデ 内面 ナデ	外面:2.5YR7/2灰白 内面:2.5YR7/2灰白	微砂	
64	土師質土器 杯	8.4		1.4	外面 ナデ 内面 ナデ	外面:10YR8/3浅黄橙 内面:10YR8/2灰白	微砂	
65	土師質土器 杯	9.0		1.5	外面 ナデ 内面 ナデ	外面:7.5YR7/3にぶい橙 内面:10YR8/2灰白	微砂	
66	土師質土器 杯	9.6		(1.6)	外面 ナデ 内面 ナデ	外面:5YR7/4にぶい橙 内面:10YR8/2灰白	2 mm以下の長石、石英を含む	
67	土師質土器 杯	10.0		(1.8)	外面 ナデ 内面 ナデ	外面:7.5YR8/2灰白 内面:7.5YR8/3浅黄橙	微砂	
68	土師質土器 杯	9.8		(2.2)	外面 ナデ 内面 ナデ	外面:10YR8/2灰白 内面:10YR8/2灰白	微砂	
69	土師質土器 杯	11.0		(2.3)	外面 ナデ 内面 ナデ	外面:10YR8/3浅黄橙 内面:10YR8/3浅黄橙	微砂	
70	土師質土器 杯	8.8		(2.5)	外面 ナデ 内面 ナデ	外面:2.5YR7/6橙 内面:7.5YR8/3浅黄橙	微砂	
71	土師質土器 杯	15.8		(3.0)	外面 ナデ 内面 ナデ	外面:10YR8/2灰白 内面:10YR8/1灰白	微砂 6 mm以下の石英を含む	
72	土師質土器 擂鉢	25.0		(4.3)	外面 ナデ 内面 ナデ 内面 条溝	外面:N6/0灰 内面:N5/0灰	微～細砂 5 mm以下の石英を含む	須恵質
73	土師質土器 擂鉢	26.8		(4.6)	外面 ナデ 内面 ナデ 内面 条溝	外面:N8/0灰白 内面:N6/0灰	3 mm以下の石英、長石を含む	瓦質
74	土師質土器 擂鉢	29.4		(8.3)	外面 ナデ 内面 ナデ 内面 条溝	外面:10YR7/1灰白 内面:N4/灰	微～細砂 1 mm以下の長石を含む	瓦質
75	土師質土器 擂鉢	29.8		(7.2)	外面 ナデ、指頭压痕 内面 ナデ 内面 条溝	外面:N4/0灰 内面:2.5GY7/1 明打-7 灰	細～粗砂 1 mm以下の石英を多く含む	瓦質
76	土師質土器 擂鉢	34.0		(11.8)	外面 ナデ、指頭压痕、接合痕 内面 ナデ 内面 条溝 口縁端部 四線 1条	外面:2.5YR/3浅黄 内面:10YR5/2灰黃	細～粗砂 2 mm以下の石英、長石を多く含む	土師質
77	土師質土器 擂鉢			(4.3)	外面 ナデ、指頭压痕 内面 ナデ 内面 条溝	外面:N3/0暗灰 内面:N8/0灰白	稍良	須恵質
78	土師質土器 擂鉢		12.2	(10.5)	外面 ナデ 内面 底ナデ 体部 摩擦の為調整不明	外面:N4/0灰 内面:N6/0灰	細～粗砂 2 mm以下の石英を含む	瓦質

押出番号	器種	法量(cm)			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
第12回 79	上師質土器 壺	24.8	(8.1)	外面 格子目タタキ 内面 ヨコナデ	外面:10YR7/3にぶい黄橙 内面:7.5YR7/3にぶい橙	細～粗砂 1mm以下の長石、石英を含む	内外面 黒斑	
80	土師質土器 壺		23.4 (4.1)	外面 ナデ 内面 ナデ	外面:10YR7/2にぶい黄橙 内面:10YR7/3にぶい黄橙	細～粗砂 2mm以下の長石、角閃石を含む	内面 黒斑	
第13回 81	七師質土器 羽釜	20.0	(8.4)	外面 煙火みどり調整不明 内面 ヨコナデ	外面:7.5Y5/3にぶい褐 内面:10YR3/1黒褐	微～細 1mm以下の長石を含む		
82	土師質土器 羽釜		22.6 (8.2)	外面 ナデ 内面 ナデ	外面:7.5YR6/6橙 内面:7.5YR6/4にぶい橙	微～細 1mm以下の石英、長石を含む	外表面 媒付着	
83	土師質土器 羽釜		22.6 (10.0)	外面 ナデ、指頭圧痕 内面 体部上面 ナデ 下部 ハケ目	外面:7.5YR7/3にぶい橙 内面:10YR6/2灰黃褐色	微～細 1mm以下の長石、角閃石を含む		
84	土師質土器 羽釜		32.2 (8.7)	外面 ナデ 内面 ナデ 体部上面摩擦の為調整不明	外面:7.5YR7/4にぶい橙 内面:7.5YR5/3にぶい褐	粗砂 2mm以下の石英、長石、角閃石を含む		
85	土師質土器 上鍋		22.2 (9.0)	外面 ナデ、指頭圧痕 内面 ハケ目、接合痕	外面:7.5YR6/3にぶい橙 内面:7.5YR6/4にぶい橙	微～細砂 1mm以下の長石、角閃石を含む	体部外表面 媒付着	
86	土師質土器 土鍋		20.4 (4.2)	外面 ナデ 内面 ナデ	外面:10YR8/2灰白 内面:2.5Y8/1灰白	微砂粒を含む	体部外表面 媒付着	
87	土師質土器 土鍋		17.4 (9.5)	外面 ナデ 内面 ナデ	外面:10YR8/2灰白 内面:10YR8/2灰白	微砂 1mm以下の石英、長石、角閃石を含む	外表面 媒付着	
88	土師質土器 土鍋		23.4 (14.5)	外面 ナデ 内面 ナデ	外面:7.5YR6/4にぶい橙 内面:10YR7/3にぶい黄橙	微～細 1mm以下の石英、長石、角閃石を含む	体部外表面 底部 媒付着	
89	土師質土器 上鍋		25.2 (7.6)	外面 ナデ、ハケ目 内面 ナデ、指頭圧痕	外面:7.5YR7/3にぶい橙 内面:7.5YR7/4にぶい橙	細～粗	体部外表面 媒付着	
第14回 90	佛前焼 壺	11.0	(7.0)	外面 ナデ 内面 ナデ 体部外面 沈線、波状文	外面:N7/ 灰白 内面:N7/ 灰白	微砂	体部上面 部分に釉付着	
91	常滑焼 壺		39.0 (3.3)	外面 ナデ 内面 ナデ	外面:5YR4/1褐色 内面:7.5YR4/1褐色	細～粗砂 3mm以下の石英、長石、微砂粒を含む		
92	瀬戸美濃系陶器 碗		15.0 (4.0)	外面 ナデ、口縁部から 4cmほど施釉 内面 ナデ、施釉	素地:5Y8/3波黃 釉:5Y7/4浅黃	密		
93	中国産青磁 輪花皿		5.2 (2.9)	外面 ナデ 内面 ナデ	素地:N8/0灰白 底面:N5/0灰 釉:5G7/1明緑灰	精良		
94	中国産白磁 小碗		9.2 (2.4)	外面 ナデ 内面 ナデ	素地:N7/ 灰白 釉:2.5I8/ 灰白	精良		

排列番号	器種	法量(cm)			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
第14回 95	中国産青磁 碗		5.8	(2.6)	外面 ナデ 内面 ナデ	素地: NS/ 灰白 輪: 5CY6/1オリーブ灰 底面: 7.5YR6/2灰黒	精良	
96	中国産青磁 碗		8.2	(1.6)	外面 ナデ, 高台内側 以外に施釉 内面 中央以外を施釉	内面: 10Y5/2オリーブ灰 素地: 5YR6/2灰黒	密	龍泉窯系
97	中国産青磁 碗		3.2	(2.1)	外面 ナデ 内面 ナデ	素地: NS/ 灰白 輪: 7.5CY6/1緑灰	精良	
98	中国産青磁 碗		6.4	(2.7)	外面 ナデ 内面 ナデ	素地: NS/ 灰白 輪: 10G17/1明綠灰	密	
99	中国産青磁 盤		12.2	(3.3)	外面 ナデ 内面 ナデ	素地: N灰白 輪: 10Y5/2オリーブ灰	密	
100	中国産青磁 碗		17.4	(4.4)	外面 ナデ, 施釉(貰入あり) 内面 ナデ, 施釉(貰入あり)	素地: 10YR6/1施灰 輪: 5Y5/3灰オリーブ	精良	
101	中国産青白磁 碗		5.2	(2.4)	外面 ナデ 内面 ナデ	素地: NS/ 灰白 輪: NS/ 灰白 染付色濃縮	精良	内外面 輪付着 景徳鎮窯系
102	土 繩	(長さ) 4.5	(幅) 3.6	(厚さ) 2.5	外面 ナデ	外面: 2.5Y8/1灰白 微砂 1mm以下の石英, 長石 を少量含む	重さ 41.2g	
103	土 繩	(長さ) 6.4	(幅) 4.0	(厚さ) 3.7	外面 ナデ	外面: 2.5Y8/1灰白 微~細砂 2mm以下の石英, 長石 を含む	重さ 86.5g	
104	土 繩	(長さ) 8.2	(幅) 4.3	(厚さ) 4.1	外面 ナデ	外面: 7.5YR6/6盤 粗砂 4mm以下の石英, 長石 を含む	重さ 146.5g	
105	土 繩	(長さ) 5.5	(幅) 2.9	(厚さ) 2.7	外面 ナデ, 指頭圧痕	外面: 2.5Y8/1灰白 微~細砂 1mm以下の石英, 長石 を含む	重さ 43.5g	
106	土 繩	(長さ) 5.3	(幅) 4.0	(厚さ) 3.9	外面 ナデ, 指頭圧痕	外面: 2.5Y8/1灰白 細~粗砂 2mm以下の石英, 長石 を含む	重さ 76.8g	
107	土 繩	(長さ) 8.0	(幅) 4.2	(厚さ) 4.3	外面 ナデ	外面: 5Y8/2灰白 微砂 微砂粒を少量含む	重さ 130.5g	
108	土 繩	(長さ) 5.5	(幅) 5.5	(厚さ) 5.5	外面 ナデ	外面: 2.5Y8/2灰白 粗砂 5mm以下の長石を多く 含む	重さ 144g	
109	土 繩	(長さ) 8.3	(幅) 4.8	(厚さ) 5.2	外面 ナデ	外面: 5YR5/4にぶい赤褐 粗砂 5mm以下の長石を多量 に含む	重さ 181.4g	
110	土 繩	(長さ) 6.0	(幅) 1.4	(厚さ) 1.6	外面 ナデ	外面: 7.5YR7/4にぶい橙 微砂	重さ 9.6g	

第5表 S D07出土遺物観察表

捕区 番号	器種	法量(cm)			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
第15回 111	鉄製品	(長さ) (幅) (厚さ) 2.7 5.6 1.0						重さ 16.6 g

第6表 S E01出土遺物観察表

捕区 番号	器種	法量(cm)			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
第17回 112	土師質土器 杯	8.2	4.0	2.0	外面 ナデ 内面 ナデ	外面:10YR6/3にぶい黄褐 内面:10YR8/3浅黄褐	微砂	
113	土師質土器 杯	10.8		(1.9)	外面 ナデ 内面 ナデ	外面:10YR8/3浅黄褐 内面:2.5Y8/2灰白	微砂	
114	土師質土器 杯		8.0	(0.8)	外面 ナデ 内面 ナデ	外面:10YR8/3浅黄褐 内面:10YR8/3浅黄褐	微砂粒を少量含む	底面 回転ヘラ切り
115	土師質土器 杯		5.2	(1.5)	外面 ナデ 内面 ナデ	外面:10YR8/2灰白 内面:2.58/2灰白	微砂	底面 回転ヘラ切り 後ナデ
116	土師質土器 羽釜	21.8		(4.3)	外面 ナデ, 指頭压痕 内面 ナデ	外面:7.5YR6/3にぶい褐 内面:5YR6/4にぶい褐	細~粗 2 mm以下の石英, 長石 を含む	
117	土師質土器 擂鉢	28.6		(7.1)	外面 ナデ, 指頭压痕 内面 はくりの為調整不明 内面 条溝	外面:2.5G7/1明褐-7灰 内面:N7/0灰白	微~細砂 5 mm以下の石英, 長石, 角閃石を多く含む	須恵質
118	土師質土器 擂鉢	29.6		(6.7)	外面 ナデ, 接合痕, 指頭压痕 内面 ナデ	外面:2.5Y8/2灰白 内面:2.5Y7/6橙	細~粗砂 3 mm以下の石英, 長石 を多く含む	土師質
119	土師質土器 擂鉢		10.0	(4.7)	外面 ナデ, 指頭压痕 内面 ナデ 内面 条溝	外面:N6/0灰 内面:2.5Y7/1灰白	細~粗砂 2 mm以下の石英, 長石 を含む	瓦質
120	土師質土器 甕	26.0		(5.8)	外面 ナデ 内面 ナデ 腹部 外面 指頭压痕 体部外側 格子目, タタキ	外面:10YR7/2にぶい黄褐 内面:10YR5/2灰黄褐	細~粗砂 2 mm以下の石英, 長石, 角閃石を含む	
121	土師質土器 甕	24.2		(6.8)	頭部外面 指頭压痕 体部外面 格子目, タタキ 内面 ナデ	外面:7.5YR7/4にぶい褐 内面:7.5Y6/4にぶい褐	細~粗砂 2 mm以下の石英, 長石, 角閃石を含む	
122	土師質土器 甕	37.6		(9.0)	外面 ナデ 頭部外面 指頭压痕 体部外面 格子目, タタキ 内面 ナデ	外面:10YR7/2にぶい黄褐 内面:10YR7/2にぶい黄褐	微~細	
123	土師質土器 甕	33.8		(9.5)	体部外面 格子目, タタキ 内面 ナデ	外面:10YR8/2灰白 内面:2.5YR4/8赤褐	細~粗砂 1 mm以下の石英, 長石 を多く含む	
124	須恵質土器 鉢	37.4		(8.3)	外面 ナデ 体部外面 印花文 内面 ナデ	外面:7.5YR6/3にぶい褐 内面:7.5YR6/4にぶい褐	微~細 1 mm以下の長石を含む	内外面 黒斑
第18回 125	擂前焼 臺	11.2		(5.3)	外面 ナデ 内面 ナデ	外面:10YR4/1褐灰 内面:N4/ 灰 釉:2.5Y8/1灰白	密	

拂団 番号	器種	法量(cm)			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
第18回 126	備前焼 擂鉢	30.0	(8.2)		外面 ナデ、接合痕 内面 ナデ 内面 条溝	外面:N4/0灰 内面:N4/0灰	精良	
127	備前焼 擂鉢	33.2	(7.6)		外面 ナデ 内面 ナデ	外面:N6/0灰 内面:N7/0灰白	精良	
128	備前焼 擂鉢	34.6	(5.9)		外面 ナデ、ハケ目、指頭圧痕、接合痕 内面 ナデ、ハケ目	外面:N6/0灰 内面:N6/0灰	精良	
129	備前焼 擂鉢	30.2	(7.3)		外面 ナデ、指頭圧痕、接合痕 内面 ナデ、指頭圧痕、接合痕 内面 条溝	外面:2.5YR6/2灰赤 内面:2.5Y5/3にぶい赤褐	精良	
130	備前焼 擂鉢	18.2	(7.0)		内面 条溝	外面:7.5YR4/2灰褐 内面:N7/0灰白	精良	
131	中国産青磁 碗	6.2 (3.9)			外面 ナデ 内面 ナデ	素地:N7/ 灰白 釉:2.5Y6/1オリーブ灰	密	龍泉窯
132	中国産青磁 碗	6.2 (1.8)			外面 ナデ 内面 ナデ	素地:N8/ 灰白 釉:10Y5/2オリーブ灰	密	
133	丸瓦				外面 ナデ 内面 ナデ	外面:10YR8/2灰白 内面:10YR8/3浅黄橙	粗砂 2 mm以下の石英、長石 を含む	
134	加工石	(長さ) 17.5	(幅) 14.0	(厚さ) 13.6		外面:7.5Y8/1灰白		角砾凝灰岩

第7表 SP110出土遺物觀察表

拂団 番号	器種	法量(cm)			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
第19回 135	土師質土器 杯	9.0	5.0	1.6	外面 ナデ 内面 ナデ	外面:5YR8/4淡橙 内面:10YR8/2灰白	細～粗砂 2 mm以下の石英、長石 を含む	
136	土師質土器 杯	8.8	5.4	1.6	外面 ナデ 内面 ナデ	外面:5YR6/6橙 内面:5YR6/6橙	細～粗砂 2 mm以下の石英、長石 を含む	

第8表 SP112出土遺物觀察表

拂団 番号	器種	法量(cm)			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
第20回 137	土師質土器 杯	9.6		(1.8)	外面 ナデ 内面 ナデ	外面:7.5YR8/1灰白 内面:5YR7/3にぶい橙	微砂	
138	土師質土器 杯	12.5		(3.0)	外面 ナデ 内面 ナデ	外面:5YR8/2灰白 内面:5YR8/3淡橙	微砂	外面 回転糸切り後 手持ちハサナリ
139	土師質土器 杯		4.4	(1.0)	内面 ナデ	外面:10YR8/2灰白 内面:10YR8/2灰白	微砂	底 面 回転糸切り後 手持ちハサナリ

拂団 番号	器種	法量(cm)			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
第20回 140	白磁 碗		6.8	(1.9)	外面 ナデ 内面 ナデ、施釉	外面:N8/ 灰白 内面:10Y8/1灰白	密	

第9表 ピット(S.P.)出土遺物観察表

拂団 番号	器種	法量(cm)			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
第21回 141	土師質土器 杯	8.6		(1.7)	外面 ナデ 内面 ナデ	外面:7.5YR7/3にぶい椎 内面:7.5YR7/4にぶい椎	微砂	
142	土師質土器 杯	9.2		(2.1)	外面 ナデ 内面 ナデ	外面:7.5YR8/2灰白 内面:7.5YR8/2灰白	微砂	
143	土師質土器 杯	10.0		(2.4)	外面 ナデ 内面 ナデ	外面:10YR8/2灰白 内面:5YR8/3淡椎	微砂 2mm以下の石英、長石を少量含む	
144	土師質土器 土鍋	30.8		(2.4)	外面 摩滅の為調整不明 内面 摩滅の為調整不明	外面:2.5YR8/3淡黄 内面:2.5YR8/3淡黄	細～粗砂 2mm以下の石英、長石、角閃石を多く含む	
145	土師質土器 土鍋	30.4		(2.2)	外面 板ナデ 内面 扱いハケ目	外面:7.5YR4/3褐 内面:10YR8/3淡黄椎	細～粗砂 微砂粒を多く含む	
146	土師質土器 羽釜			(4.8)	外面 ナデ 内面 ナデ	外面:7.5YR7/3にぶい椎 内面:7.5YR4/2灰褐	2mm以下の長石、石英を多量に含む	
147	土師質土器 羽釜			(3.3)	外面 ナデ、指頭圧痕 内面 ナデ、指頭圧痕	外面:7.5YR7/3にぶい椎 内面:2.5Y7/1灰白	細～粗砂 2mm以下の石英、長石、角閃石を多く含む	
148	土師質土器 羽釜			(2.5)	外面 荒いハケ目、接合痕 内面 荒いハケ目	外面:5YR4/1褐白 内面:7.5YR8/1灰白	細～粗砂 2mm以下の石英、長石、角閃石を多く含む	外面 媒付着
149	土師質土器 羽釜			(3.3)	外面 ナデ、指頭圧痕 内面 ナデ	外面:2.5Y8/2褐白 内面:10YR8/3淡黄椎	微～細砂 1mm以下の石英、長石、角閃石を含む	
150	土師質土器 釜脚部	(長さ) 10.5	(幅) 2.5	(厚さ) 2.7	外面 板ナデ、指頭圧痕	外面:7.5YR5/2灰褐	細～粗砂 微砂粒をやや多く含む	外面 媒付着
151	土師質土器 釜脚部	(長さ) 10.6	(幅) 3.0	(厚さ) 3.0	外面 板ナデ、指頭圧痕 内面 ナデ	外面:7.5YR5/3にぶい椎	細～粗砂 微砂粒を若干含む	外面 媒付着
152	須恵質 甕	21.4		(4.1)	口縁部外面 ヨコナデ 部外表面 粗いハケ目 口縁部内面 ヨコナデ 強部内面 細いハケ目 口縁部内面 卷線 1条	外面:N4/ 灰 内面:N4/ 灰	微砂粒を含む	
153	中国產青磁 碗			(3.5)	外面 ナデ 内面 ナデ	外面: 内面: 素地:N7/ 灰白 釉:2.5G16/1オリーブ灰	密	龍泉窯系
154	中国產青磁 碗			(2.7)	外面 ナデ 内面 ナデ 外表面 施透明	外面: 内面: 素地:N7/ 灰白 釉:2.5G17/1明緑灰	密	龍泉窯系

神団 番号	器種	法量(cm)			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
第21図 155	中国産青磁 碗	12.8		(2.0)	外面 ナデ 内面 ナデ	素地:N8/ 灰白 釉:2.5Y7/1明オーラープ反	密	
156	土 睡	(長さ) 5.5	(幅) 3.8	(厚さ) 2.2	外面 ナデ 内面 ナデ	外面:2.5Y8/1灰白 内面:2.5Y8/1灰白	微～細砂 1mm以下の長石、角閃石を含む	

第10表 SX01出土遺物観察表

神団 番号	器種	法量(cm)			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
第23図 157	土師質土器 杯	7.8	4.0	1.5	外面 ナデ 内面 ナデ 底部 板ナデ	外面:5YR8/4淡橙 内面:5YR8/2灰白	微砂	
158	土師質土器 杯	9.0		(1.6)	外面 ナデ 内面 ナデ	外面:5YR8/3淡橙 内面:5YR8/2灰白	微砂	
159	土師質土器 杯			(1.7)	外面 ナデ 内面 ナデ	外面:SY4/1灰 内面:10YR8/1灰白	微砂	
160	土師質土器 杯	9.5		(2.2)	外面 ナデ 内面 ナデ	外面:10YR8/1灰白 内面:10YR8/1灰白	微砂	
161	土師質土器 杯	11.0		(2.1)	外面 ナデ 内面 ナデ	外面:2.5Y8/1灰白 内面:2.5Y8/2灰白	微砂	
162	東播系須恵器 楕	17.8	10.2	6.0	外面 ナデ 底部外面 糸切り 内面 ナデ	外面:N5/ 灰 内面:N5/ 灰	細砂 1mm以下の石英、長石を含む	
163	東播系須恵器 こね鉢	27.0		(3.6)	外面 ナデ 内面 ナデ, 指頭圧痕	外面:Y7/0灰白 内面:7.5Y8/1明暎灰	細～粗砂 2mm以下の石英、長石を含む	

第11表 SX02出土遺物観察表

神団 番号	器種	法量(cm)			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
第27図 164	土師質土器 杯	18.4	9.5	3.1	外面 ナデ 内面 ナデ 底部外面 糸切り	外面:7.5YR8/2灰白 内面:10YR8/2灰白	微砂	
165	土師質土器 擂 鉢		3.0		(9.5) 外面 ナデ 内面 ナデ	外面:N6/0灰 内面:N6/0灰	精良	瓦質
166	土師質土器 土 鍋	24.4		(30.0)	外面 ナデ 内面 ナデ	外面:5YR6/4にぶい盤 内面:5YR7/4にぶい盤	細～粗砂 2mm以下の長石を含む	
167	中国産青磁 碗	14.4		(2.5)	外面 ナデ, 施釉 内面 ナデ, 施釉	素地:X8/ 灰白 釉:10Y5/2オリーブ灰	精良	
168	土 睡	(長さ) 7.5	(幅) 4.3	(厚さ) 4.5	外面 ナデ	外面:7.5YR8/2灰白	微砂	重さ 148.7g

掲図 番号	器種	法量(cm)			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
第27図 169	龜山焼須恵器 甕	36.0		(8.6)	外面 格子目、タタキ 内面 タタキ	外面:N6/ 灰 内面:N7/ 灰白	微砂	
170	龜山焼須恵器 甕	25.2		(14.3)	頸部外面 格子目、タタキ 体部外面 格子目、タタキ 内面 タタキ	外面:5Y7/1灰白 内面:2.5Y7/1灰白	微砂	
171	備前焼 壺	12.0	13.4	23.0	外面 ナデ 内面 ナデ	外面:5YR5/1褐色 内面:2.5YR5/3にぶい赤褐色	微砂 2mm以下の長石を少量含む	内面 黒斑
172	備前焼 壺	13.6		(7.8)	外面 ナデ 内面 ナデ	外面:2.5YR5/2灰赤 内面:7.5YR6/1褐色 釉:灰白	精良 1mm以下の長石を少量含む	
173	備前焼 壺			9.2 (7.4)	外面 ナデ 内面 ナデ	外面:10YR4/3にぶい黄褐色 内面:2.5Y3/1黒褐色 素地:N6/ 灰	密	
174	備前焼 擂鉢	24.8		(4.6)	外面 ナデ 内面 ナデ 内面 条溝	外面:10YR5/1褐色 内面:10YR5/2灰黄褐色	微～細 1mm以下の長石を含む	

第12表 近世遺物包含層出土遺物観察表

掲図 番号	器種	法量(cm)			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
第28図 175	土師質上器 擂鉢	28.0		(5.9)	外面 ナデ、接合痕 内面 条溝	外面:7.5Y7/1灰白 内面:N7/0灰白	微～細砂 1mm以下の長石を若干含む	瓦質
176	土師質上器 擂鉢	30.6		(7.8)	外面 摩滅の為調整不明 内面 摩滅の為調整不明	外面:5Y7/1灰白 内面:5Y7/1灰白	粗砂 微砂粒を多く含む	須恵質
177	土師質上器 擂鉢	33.6		(5.0)	外面 摩滅の為調整不明 内面 ナデ	外面:N6/0灰 内面:N3/0暗灰	微～細砂 1mm以下の石英、長石を含む	瓦質
178	土師質上器 羽釜		25.2	10.4	外面 ナデ 内面 ナデ	外面:10YR7/4にぶい黄褐色 内面:10YR7/2にぶい黄褐色	細～粗砂 2mm以下の石英、長石、角閃石を含む	外面 媒付着
179	肥前系陶器 満縁皿	13.2		(2.2)	外面 ナデ、施釉 内面 ナデ、施釉	素地:5Y8/1灰白	精良	
180	肥前系陶器 皿	13.2		(2.4)	外面 ナデ 内面 ナデ	素地:N8/ 灰白 釉:5Y7/1明オーリーブ/灰 繪付釉:10Y5/2オーリーブ/灰	精良	
181	肥前系陶器 鉄 線組	13.8		(2.1)	外面 ナデ 内面 ナデ	素地:5Y6/1灰 釉:5Y6/2灰オーリーブ 繪付釉:5YR4/2褐色	密	
182	肥前系陶器 碗	10.2		(4.4)	外面 ナデ、施釉 内面 ナデ、施釉	素地:5Y7/1灰白 釉:5Y7/1灰白	密	
183	陶 器 瓶		4.4	(2.2)	外面 ナデ 内面 ナデ	外面:10YR8/1灰白 内面:10YR8/2灰白	密	

拂団 番号	器種	法量(cm)			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
第28回 184	肥前系陶器 皿	22.4		(3.3)	外面 ナデ 口縁部外面 施釉 内面 ナデ, 施釉	素地: 10YR5/1褐色 釉: N8/灰白	密	
185	肥前系陶器 碗		4.4	(2.9)	外面 ナデ, 施釉 内面 ナデ 体部 施釉	素地: 7.5YR8/3浅黄橙 釉: 7.5G18/1明緑灰	密	
186	肥前系陶器 鉢		11.4	(3.3)	外面 ナデ 内面 ナデ, 施釉	素地: 10R6/4に若い赤 釉: 2.5G17/1明緑-7 絵付釉: 7.5V8/1灰白	密	
187	肥前系陶器 皿		4.2	(2.1)	外面 ナデ, 削り出し高台, 高台以外を施釉 内面 ナデ, 緞胎	素地: 7.5YR8/3浅黄橙 釉: 7.5V6/2灰オーリーブ	密	内面 難れ砂付着
188	肥前系陶器 皿		4.6	(1.6)	外面 ナデ 内面 ナデ, 砂目, 施釉	素地: N8/0灰白 釉: 10Y6/2オリーブ灰	密	
189	備前焼 壺		5.8	(5.6)	外面 ナデ 内面 ナデ	外面: N7/灰白 内面: 7.5YR5/2灰褐	難~細砂 1mm以下の石英, 長石, 角閃石を含む	
190	京信楽系陶器 碗		4.8	(2.0)	外面 ナデ, 高台着地部以 外は施釉 内面 ナデ	素地: 10YR8/1灰白 釉: 7.5Y8/2灰白	密	
191	京信楽系陶器 碗		5.6	(2.4)	外面 ナデ, 高台着地部以 外は施釉 内面 ナデ, 施釉	素地: 7.5Y8/1灰白 釉: 5Y8/2灰白	密	
192	国産磁器 皿	12.0		(2.2)	外面 ナデ, 施釉 内面 ナデ, 施釉	素地: N8/灰白 釉: 10G8/1明緑灰	精良	
193	国産磁器 碗	12.0		(3.3)	外面 ナデ, 施釉 内面 ナデ, 施釉	素地: N8/灰白 釉: 10G8/1明緑灰	精良	
194	中国産青磁 碗	14.0		(2.8)	外面 ナデ, 施釉 内面 ナデ, 施釉	素地: N8/0灰白 釉: 5Y3/3灰オーリーブ	精良	同安窯系
195	中国産青磁 碗	14.4		(1.7)	外面 ナデ 内面 ナデ	素地: N7/灰白 釉: 6/1オリーブ灰	密	
196	中国産青磁 碗	14.2		(4.2)	外面 ナデ 内面 ナデ	素地: N8/灰白 釉: 7.5Y6/2灰オーリーブ	密	龍泉窯系
197	中国産青磁 碗			(3.4)	外面 ナデ 内面 ナデ	素地: N7/灰白 釉: 7.5G17/1明緑灰	密	龍泉窯系
198	中国産青磁 皿			(2.8)	外面 ナデ, 施釉 内面 ナデ, 施釉	素地: 2.5Y8/1灰白 釉: 5Y7/3淡黄	精良	
199	中国産白磁 碗			(3.5)	外面 ナデ 内面 ナデ	素地: N8/灰白 釉: 2.5G18/1灰白	精良	

排団 番号	器種	法量(cm)			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
第28回 200	中国唐白磁 碗		4.8	(1.7)	外面 ナデ 内面 ナデ、蛇の目釉ハギ	素地:7.5Y8/1灰 輪:2.5G17/1明緑-7灰	密	
201	中国唐青白磁 碗			(1.5)	外面 ナデ 内面 ナデ	素地:X8/ 灰白 輪:10G8/1明緑灰	精良	
202	中国唐白磁 壺		2.2	(4.2)	外面 ナデ、施釉 内面 ナデ、施釉	素地:X8/ 灰白 輪:7.5G8/1明緑灰	精良	
203	土 鍋	(長さ) 9.5	(幅) 7.3	(厚さ) 5.5	外面 ナデ	外面:10YR5/3にぶい黄褐 3mm以下の石英、長石 を多く含む	精砂	354 g
204	土 鍋	(長さ) 8.4	(幅) 5.2	(厚さ) 5.2	外面 ナデ	外面:5YR5/6明赤褐	精砂 3mm以下の石英、長石 を多く含む	191 g
205	面 子	(長さ) 5.0	(幅) 4.6	(厚さ) 1.3	外面 ナデ 内面 ハケ目	外面:5YR4/4にぶい赤褐 内面:10YR5/1褐色	密	
206	銅 製品	(長さ) 8.1	(幅) 1.0	(厚さ) 0.3				重さ 14.8 g 青銅
第29回 207	銅 錢	(直徑) 2.5						重さ 2.9 g
	至道元宝							
208	銅 錢	(直徑) 2.5						重さ 3.3 g
209	銅 錢	(直徑) 2.5						重さ 2.8 g
	祥符元宝							
210	銅 錢	(直徑) 2.5						重さ 2.8 g
	元豐通宝							
211	銅 錢	(直徑) 2.5						重さ 3.4 g
	聖宋元宝							
212	銅 錢	(直徑) 1.0						重さ 1.6 g
	寛永通宝							

写 真 図 版



1 調査区全景（西から）



2 調査区全景（東から）

図版2



1 SD03(西側) (北から)



2 SD03(西側)断面土層 (北から)



1 SD03(南側) (東から)



2 SD03(南側)断面土層 (東から)

図版 4



1 SD03(東側) (南から)



2 SD03(東側)断面土層 (北から)



1 SE01検出状況（南から）



2 SE01断面土層（西から）

図版6



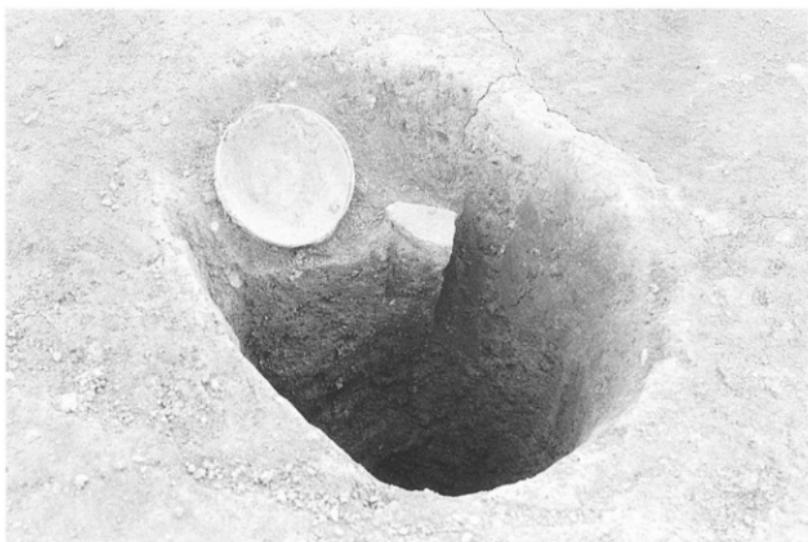
1 SD03とSE01（北東から）



2 SX02（東から）



1 ピット都（東から）



2 SP110土器出土状況

图版 8



25



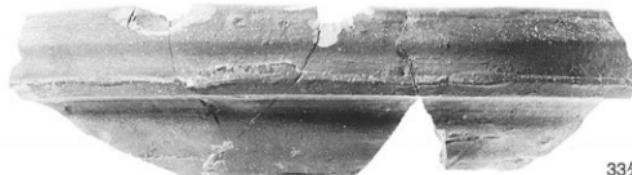
40



42



28



33外面



33里面

SD03出土遗物



54



90



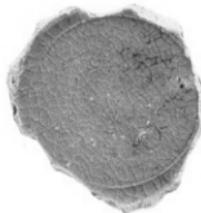
98



91



101



97

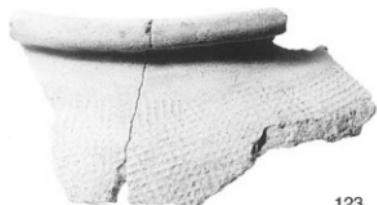


20

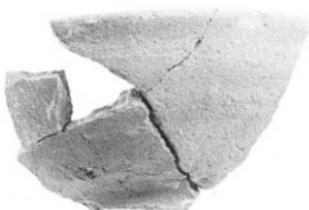


75





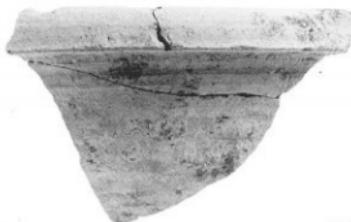
123



162



135



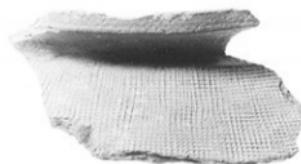
163



164

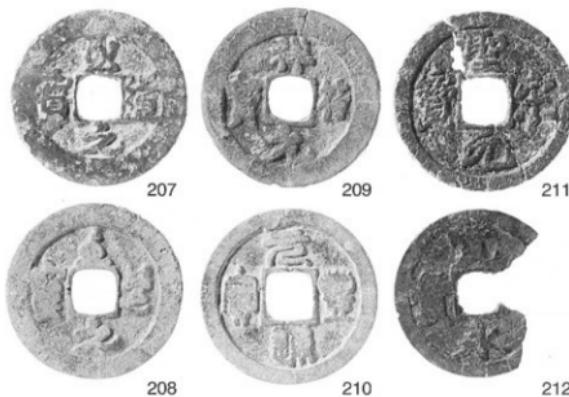


171



169

SE01, SP110, SX01・02出土遺物



SD03出土土錘、近世包含層出土銅錢

報告書抄録

ふりがな	こうざいみなみにしうちいせき							
書名	香西南西打遺跡							
副書名	高松市ふれあい福祉センター勝賀建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ名	高松市埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	第46集							
編集者名	川畑聰							
編集機関	高松市教育委員会							
所在地	〒760-8571 香川県高松市番町一丁目8番15号 TEL 087(839)2636							
発行年月日	平成12年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
こうざいみなみにしうち 香西南西打 遺跡	たかまつし 高松市 こうざいみなみまち 香西南町 476番地1	37201		34° 20' 30"	134° 0' 10"	H9.8.7 ~ H9.10.6	760m ²	高松市ふ れあい福 祉センタ ー勝賀建 設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
香西南西打 遺跡	城館	室町時代 安土・桃 山時代	方形区画溝 井戸	上師質土器 須恵質土器 国産陶磁器 中国産陶磁器 銅錢				

香西南西打遺跡

高松市ふれあい福祉センター勝賀
建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

編集・発行 高松市教育委員会
高松市番町一丁目8番15号
発 行 日 平成12年3月31日
印 刷 株式会社へいわ